

各都道府県介護保険担当課（室）

各市町村介護保険担当課（室）

各介護保険関係団体 御中

← 厚生労働省 老健局振興課

介護保険最新情報

今回の内容

「地域支援事業交付金交付要綱の一部改正」について

計108枚（本紙を除く）

Vol.522

平成28年3月1日

厚生労働省老健局振興課

【 貴関係諸団体に速やかに送信いただきますよう
よろしく願いいたします。 】

連絡先 TEL：03-5253-1111（3986）

FAX：03-3503-7894

厚生労働省発老0301第4号

平成28年3月1日

各都道府県知事殿

厚生労働事務次官

(公印省略)

地域支援事業交付金の交付について

介護保険法（平成9年法律第123号）第122条の2に基づく交付金の交付については、平成20年5月23日厚生労働省発老第0523003号本職通知の別紙「地域支援事業交付金交付要綱」（以下「交付要綱」という。）により行われているところであるが、今般、交付要綱の一部が別添新旧対照表のとおり改正され、平成27年4月1日から適用することとされたので通知する。

なお、各都道府県知事におかれては、貴管内市町村等に対する周知について、ご配慮願いたい。

地域支援事業交付金交付要綱の新旧対照表

改正後（新）	改正前（旧）
<p style="text-align: center;">地域支援事業交付金交付要綱</p> <p>(通則)</p> <p>1 介護保険法（平成9年法律第123号。以下「法」という。）第122条の2に基づく交付金については、予算の範囲内において交付するものとし、法、介護保険法施行令（平成10年政令第412号。以下「政令」という。）、介護保険法施行規則（平成11年厚生省令第36号）、介護保険の国庫負担金の算定等に関する政令（平成10年政令第413号）、<u>介護保険法第122条の2第2項に規定する交付金の額の算定に関する省令（平成27年厚生労働省令第58号。以下「算定省令」という。）</u>、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号。以下「適正化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号。以下「適正化令」という。）及び厚生労働省所管補助金等交付規則（平成12年厚生省・労働省令第6号）の規定によるほか、この交付要綱の定めるところによる。</p> <p>(交付の目的及び趣旨)</p> <p>2 この交付金は、市町村（特別区、一部事務組合及び広域連合等を含む。以下同じ。）が、地域支援事業を行うことにより、被保険者が要介護状態又は要支援状態<u>となることを予防し、社会に参加しつつ、</u>地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とし、<u>地域における包括的な相談及び支援体制、多様な主体の参画による日常生活の支援体制、在宅医療と介護の連携体制及び認知症高齢者への支援体制の構築等を一体的に推進する。</u></p> <p>(交付の対象)</p> <p>3 この交付金は次の(1)、<u>(2)及び(3)</u>に掲げる市町村の区分に応じ、それぞれアからウまでに掲げる事業を交付の対象とする。</p> <p><u>(1) 介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村</u></p> <p><u>ア 法第115条の45第1項第1号及び同項第2号に基づき、平成18年6月9日老発第0609001号厚生労働省老健局長通知の別紙「地域支援事業実施要綱」（以下「実施要綱」という。）別記1の第2の1により市町村が行う事業（以下「介護予防・日常生活支援総合事業」という。）</u></p>	<p style="text-align: center;">地域支援事業交付金交付要綱</p> <p>(通則)</p> <p>1 介護保険法（平成9年法律第123号。以下「法」という。）第122条の2に基づく交付金については、予算の範囲内において交付するものとし、法、介護保険法施行令（平成10年政令第412号。以下「政令」という。）、介護保険法施行規則（平成11年厚生省令第36号）、介護保険の国庫負担金の算定等に関する政令（平成10年政令第413号。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号。以下「適正化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号。以下「適正化令」という。）及び厚生労働省所管補助金等交付規則（平成12年厚生省・労働省令第6号）の規定によるほか、この交付要綱の定めるところによる。</p> <p>(交付の目的)</p> <p>2 この交付金は、市町村（特別区、一部事務組合及び広域連合等を含む。以下同じ。）が、地域支援事業を行うことにより、被保険者が要介護状態又は要支援状態<u>（以下「要介護状態等」という。）</u>となることを予防するとともに、<u>要介護状態等となった場合においても、可能な限り、</u>地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とする。</p> <p>(交付の対象)</p> <p>3 この交付金は次の(1) <u>又は(2)</u>に掲げる市町村の区分に応じ、それぞれ<u>(1)のアからウまで又は(2)のアからウまでに</u>掲げる事業を交付の対象とする。</p> <p><u>(新設)</u></p>

改正後（新）	改正前（旧）
<p><u>イ 法第 115 条の 45 第 2 項各号及び法第 115 条の 48 に基づき、実施要綱別記 4 及び 5 により市町村が行う事業（以下「包括的支援事業」といい、このうち法第 115 条の 45 第 2 項第 1 号から第 3 号までを「包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）」とし、同項第 4 号から第 6 号及び法第 115 条の 48 に掲げる事業を「包括的支援事業（社会保障充実分）」という。）</u></p> <p><u>ウ 法第 115 条の 45 第 3 項に基づき、実施要綱別記 6 により市町村が行う事業（以下「任意事業」という。）</u></p> <p>(2) <u>旧介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村</u></p> <p>ア <u>地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律（平成 26 年法律第 83 号）附則第 14 条により、なおその効力を有するものとされた同法第 5 条の規定による改正前の法（以下「旧法」という。）第 115 条の 45 第 1 項第 1 号及び同項第 2 号並びに第 2 項各号に基づき、実施要綱別記 2 により市町村が行う事業（以下「旧介護予防・日常生活支援総合事業」という。）</u></p> <p>イ <u>包括的支援事業</u></p> <p>ウ <u>任意事業</u></p> <p>(3) <u>旧介護予防事業を実施する市町村</u></p> <p>ア <u>旧法第 115 条の 45 第 1 項第 1 号に基づき、実施要綱別記 3 により市町村が行う事業（以下「旧介護予防事業」という。）</u></p> <p>イ <u>包括的支援事業</u></p> <p>ウ <u>任意事業</u></p> <p>(交付額の算定方法)</p> <p>4 この交付金の交付額は、次により算出するものとする。</p> <p><u>(1) 3の(1)に掲げる市町村の場合は、次により算出するものとする。</u></p>	<p>(1) <u>介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村</u></p> <p>ア <u>法第 115 条の 45 第 1 項第 1 号及び同項第 2 号並びに第 2 項各号に基づき、平成 18 年 6 月 9 日老発第 0609001 号厚生労働省老健局長通知の別紙「地域支援事業実施要綱」（以下「実施要綱」という。）別記 1 の第 2 の 1 により市町村が行う事業（以下「介護予防・日常生活支援総合事業」という。）</u></p> <p>イ <u>法第 115 条の 45 第 1 項第 3 号から第 5 号までにに基づき、実施要綱別記 1 の第 2 の 2 により市町村が行う事業（介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村にあつては、以下「包括的支援事業」という。）</u></p> <p>ウ <u>法第 115 条の 45 第 3 項に基づき、実施要綱別記 1 の第 2 の 3 により市町村が行う事業（介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村にあつては、以下「任意事業」という。）</u></p> <p>(2) <u>介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村</u></p> <p>ア <u>法第 115 条の 45 第 1 項第 1 号に基づき、実施要綱別記 2 の第 2 の 1 により市町村が行う事業（以下「介護予防事業」という。）</u></p> <p>イ <u>法第 115 条の 45 第 1 項第 2 号から第 5 号までにに基づき、実施要綱別記 2 の第 2 の 2 により市町村が行う事業（介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村にあつては、以下「包括的支援事業」という。）</u></p> <p>ウ <u>法第 115 条の 45 第 3 項に基づき、実施要綱別記 2 の第 2 の 3 により市町村が行う事業（介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村にあつては、以下「任意事業」という。）</u></p> <p>(交付額の算定方法)</p> <p>4 この交付金の交付額は、次により算出するものとする。</p> <p><u>(新設)</u></p>

改正後（新）	改正前（旧）
<p><u>ア 次の表の第1欄に定める区分ごとに、第2欄に定める基準額と第3欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。</u></p> <p><u>イ アにより選定された額に、第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額に、算定省令により市町村ごとに算定された額（以下「総合事業調整交付金」という。）を加えた額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。</u></p> <p><u>(2) 3の(2)に掲げる市町村の場合は、次により算出するものとする。</u></p> <p>ア 次の表の第1欄に定める区分ごとに、第2欄に定める基準額と第3欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。ただし、<u>旧介護予防・日常生活支援総合事業と包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）及び任意事業の基準額の合計は、給付見込額（旧介護予防・日常生活支援総合事業を行わないこととした場合に、介護給付等に要することとなる費用の予想額。）に0.03を乗じて得た額とするが、介護保険法施行令及び地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備等及び経過措置に関する政令の一部を改正する政令（平成27年政令第269号）第2条の規定による旧政令第37条の13第3項各号</u>に該当する市町村にあっては、次に定める額とすることができる。</p> <p>(ア) 給付見込額に0.015を乗じて得た額が300万円に満たない市町村（以下「小規模市町村」という。）が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を300万円とした場合にあっては、給付見込額に0.015を乗じて得た額に300万円を加えた額とする。</p> <p>(イ) 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超える場合（厚生労働大臣が特に必要と認める場合に限るものとし、(ア)の適用を受けるものを除く。）にあっては、給付見込額に0.04を乗じて得た額を超えない範囲で、厚生労働大臣が相当と認める額とする。</p> <p>イ アにより選定された額に、第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。</p> <p><u>(3) 3の(3)に定める市町村の場合は、次により算出するものとする。</u></p> <p>ア 次の表の第1欄に定める区分ごとに、第2欄に定める基準額と第3欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。ただし、<u>旧介護予防事業と包括的支援事業（地域包括</u></p>	<p><u>(1) 3の(1)に掲げる市町村の場合は、次により算出するものとする。</u></p> <p>ア 次の表の第1欄に定める区分ごとに、第2欄に定める基準額と第3欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。ただし、基準額の合計は、給付見込額（介護予防・日常生活支援総合事業を行わないこととした場合に、介護給付等に要することとなる費用の予想額。<u>4の(1)及び(3)において同じ。</u>）に0.03を乗じて得た額とするが、<u>政令第37条の13第3項各号</u>に該当する市町村にあっては、次に定める額とすることができる。</p> <p>(ア) 給付見込額に0.015を乗じて得た額が300万円に満たない市町村（以下「小規模市町村」という。）が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を300万円とした場合にあっては、給付見込額に0.015を乗じて得た額に300万円を加えた額とする。</p> <p>(イ) 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超える場合（厚生労働大臣が特に必要と認める場合に限るものとし、(ア)の適用を受けるものを除く。）にあっては、給付見込額に0.04を乗じて得た額を超えない範囲で、厚生労働大臣が相当と認める額とする。</p> <p>イ アにより選定された額に、第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。</p> <p><u>(2) 3の(2)に定める市町村の場合は、次により算出するものとする。</u></p> <p>ア 次の表の第1欄に定める区分ごとに、第2欄に定める基準額と第3欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。ただし、基準額の合計は、給付見込額（<u>政令第37条</u></p>

改正後（新）	改正前（旧）
<p><u>支援センターの運営</u>及び任意事業の基準額の合計は、給付見込額（<u>介護保険法施行令及び地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備等及び経過措置に関する政令の一部を改正する政令第2条の規定による旧政令第37条の13第1項及び同条第2項</u>に規定する給付見込額をいう。）に0.03を乗じて得た額（給付見込額に0.015を乗じて得た額が300万円に満たない市町村が包括的支援事業及び任意事業の基準額を300万円とした場合にあつては、給付見込額に0.015を乗じて得た額に300万円を加えた額）とする。</p> <p>イ アにより選定された額に、第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。</p> <p><u>(4) 年度途中から3の(1)に掲げる市町村となる場合は、次により算出するものとする。</u></p> <p><u>ア 次の表の第1欄に定める区分ごとに、第2欄に定める基準額と第3欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。</u></p> <p><u>ただし、年度途中から介護予防・日常生活支援総合事業を実施する場合は、介護予防・日常生活支援総合事業と併せて旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業を実施することになるため、この場合の第2欄に定める基準額は、第1欄に定める区分が介護予防・日常生活支援総合事業の基準額を使用し、第3欄に定める対象経費は、介護予防・日常生活支援総合事業、旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業の対象経費の実支出額の合計額（以下「介護予防・日常生活支援総合事業等合計額」という。）とする。</u></p> <p><u>イ アにより選定された介護予防・日常生活支援総合事業等合計額が、第2欄に定める介護予防・日常生活支援総合事業の基準額を超えない場合は、第1欄に定める区分ごとに第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額に、総合事業調整交付金を加えた額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。</u></p> <p><u>ウ アにより選定された介護予防・日常生活支援総合事業等合計額が、第2欄に定める介護予防・日常生活支援総合事業の基準額を超える場合は、旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業の対象経費の実支出額から優先して調整することにより、介護予防・日常生活支援総合事業の基準額を超えない額とした上で、第1欄に定める区分ごとに第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額に、総合事業調整交付金を加えた額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。</u></p>	<p><u>の13第1項及び同条第2項</u>に規定する給付見込額をいう。<u>4の(2)及び(4)において同じ。</u>)に0.03を乗じて得た額（給付見込額に0.015を乗じて得た額が300万円に満たない市町村が包括的支援事業及び任意事業の基準額を300万円とした場合にあつては、給付見込額に0.015を乗じて得た額に300万円を加えた額）とする。</p> <p>イ アにより選定された額に、第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。</p> <p><u>(新設)</u></p>

改正後（新）				改正前（旧）			
1 区分	2 基準額	3 対象経費	4 交付率	1 区分	2 基準額	3 対象経費	4 交付率
介護予防・日常生活支援総合事業	<p>以下の①又は②に掲げる額のうちいずれか高い額</p> <p>① アに掲げる額からイに掲げる額を控除して得た額</p> <p>ア 介護予防・日常生活支援総合事業（年度途中の実施も含む。）の事業開始の前年度の予防給付費額（介護予防訪問介護、介護予防通所介護、介護予防支援に係るものに限る。）並びに旧介護予防・日常生活支援総合事業費額及び旧介護予防事業費額の合計額に当該市町村の75歳以上高齢者の伸び（注）を乗じて得た額</p> <p>イ 当該年度の予防給付費額（介護予防訪問介護、介護予防通所介護、介護予防支援に係るものに限る。）</p> <p>② アに掲げる額からイに掲げる額を控除して得た額</p> <p>ア 介護予防・日常生活支援総合事業（年度途中の</p>	<p>介護予防・日常生活支援総合事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料（介護予防のための器具等をレンタル又はリースする場合は、購入する場合の単価が10万円以下のものに限る。）、備品購入費（介護予防のための器具等を購入する場合は、単価10万円以下のものに限る。）、負担金、補助金</p> <p>なお、給料、職員手当等及び共済費については、介護予防・生活支援サービス事業のうち、訪問型サービスC及び通所型サービスCに従事する保健師に係る経費を除く。</p>	20/100	(新設)	(新設)	(新設)	(新設)

改正後（新）				改正前（旧）			
	<p>実施も含む。)の事業開始の前年度の予防給付費額並びに旧介護予防・日常生活支援総合事業費額及び旧介護予防事業費額の合計額に当該市町村の75歳以上高齢者の伸び(注)を乗じて得た額</p> <p>イ 当該年度の予防給付費額</p> <p>(注) 10月1日時点の住民基本台帳における75歳以上高齢者数の当該年度を除く直近3か年の平均伸び率</p> <p>ただし、平成27年度から平成29年度までは、以下の③又は④に掲げる額のうちいずれか高い額を基準額とすることができる。</p> <p>③ アに掲げる額からイに掲げる額を控除して得た額</p> <p>ア 介護予防・日常生活支援総合事業(年度途中の実施も含む。)の事業開始の前年度の予防給付費額(介護予防訪問介護、介護予防通所介護、介</p>						

改正後（新）				改正前（旧）			
	<p><u>護予防支援に係るもの</u> <u>に限る。）並びに旧介護</u> <u>予防・日常生活支援総合</u> <u>事業費額及び旧介護予</u> <u>防事業費額の合計額に</u> <u>1.1を乗じた額</u></p> <p><u>イ 当該年度の予防給付</u> <u>費額（介護予防訪問介護</u> <u>、介護予防通所介護、介</u> <u>護予防支援に係るもの</u> <u>に限る。）</u></p> <p>④ <u>アに掲げる額からイに</u> <u>掲げる額を控除して得た</u> <u>額</u></p> <p><u>ア 介護予防・日常生活支</u> <u>援総合事業（年度途中の</u> <u>実施も含む。）の事業開</u> <u>始の前年度の予防給付</u> <u>費額並びに旧介護予防</u> <u>・日常生活支援総合事業</u> <u>費額及び旧介護予防事</u> <u>業費額の合計額に1.1を</u> <u>乗じて得た額</u></p> <p><u>イ 当該年度の予防給付</u> <u>費額</u></p> <p><u>なお、市町村における総合</u> <u>事業の円滑な実施に配慮し、</u> <u>対象経費の支出予定額が基</u> <u>準額を超える場合は、個別協</u> <u>議を実施し、厚生労働大臣が</u></p>						

改正後（新）				改正前（旧）			
	<u>特に必要と認める場合に限り、その額に置き換えることができる。</u>						
旧介護予防・日常生活支援総合事業	<p>給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。</p> <p>ただし、<u>旧政令第37条の13第3項各号</u>に該当する市町村にあっては、次に定める額とすることができる。</p> <p>① 小規模市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を300万円とした場合は、給付見込額に0.015を乗じて得た額とする。</p> <p>② <u>旧介護予防・日常生活支援総合事業</u>に要する費用の予想額が給付見込額に0.02を乗じて得た額を超える場合（厚生労働大臣が特に必要と認める場合に限り、①の適用を受けるものを除く。）にあっては、次に定める額とする。</p> <p>③ 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超えない場合は、当該額から包括的支援事</p>	<p>旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料（介護予防のための器具等をレンタル又はリースする場合は、購入する場合の単価が10万円以下のものに限る。）、備品購入費（介護予防のための器具等を購入する場合は、単価10万円以下のものに限る。）、負担金、補助金</p> <p>なお、給料、職員手当等及び共済費については、二次予防事業のうち、通所型介護予防事業及び訪問型介護予防事業（旧介護予防・日常生活支援総合事業を行う場合にあっては、二次予防事業対象者に対する予防サービス事業のうち、通所型予防サービス及</p>	25/100	介護予防・日常生活支援総合事業	<p>給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。</p> <p>ただし、<u>政令第37条の13第3項各号</u>に該当する市町村にあっては、次に定める額とすることができる。</p> <p>① 小規模市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を300万円とした場合は、給付見込額に0.015を乗じて得た額とする。</p> <p>② 介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の予想額が給付見込額に0.02を乗じて得た額を超える場合（厚生労働大臣が特に必要と認める場合に限り、①の適用を受けるものを除く。）にあっては、次に定める額とする。</p> <p>③ 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超えない場合は、当該額から包括的支</p>	<p>介護予防・日常生活支援総合事業又は介護予防事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料（介護予防のための器具等をレンタル又はリースする場合は、購入する場合の単価が10万円以下のものに限る。）、備品購入費（介護予防のための器具等を購入する場合は、単価10万円以下のものに限る。）、負担金、補助金</p> <p>なお、給料、職員手当等及び共済費については、二次予防事業のうち、通所型介護予防事業及び訪問型介護予防事業（介護予防・日常生活支援総合事業を行う場合にあっては、二次予防事業対象者に対する予防サービス事業のうち、通所型予防サービス及び訪問相談・指導）に従事する保健師に係る経費を除く。</p>	25/100

改正後（新）				改正前（旧）			
	業及び任意事業に要する費用の額を控除して得た額とする。 ④ 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超える場合は、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超えない範囲で、厚生労働大臣が相当と認める額とする。	び訪問相談・指導）に従事する保健師に係る経費を除く。			援事業及び任意事業に要する費用の額を控除して得た額とする。 ④ 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超える場合は、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超えない範囲で、厚生労働大臣が相当と認める額とする。		
Ⅷ介護予防事業	給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。 ただし、小規模市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を300万円とした場合は、給付見込額に0.015を乗じて得た額とする。			介護予防事業	給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。 ただし、小規模市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を300万円とした場合は、給付見込額に0.015を乗じて得た額とする。		
包括的支援事業 （地域包括支援センターの運営） 及び任意事業	<u>平成26年度の包括的支援事業及び任意事業の上限額に当該市町村の65歳以上高齢者数の伸び（注）を乗じて得た額とする。平成28年度以降は前年度に算定した基準額に当該市町村の65歳以上高齢者数の伸び（注）を乗じ</u>	包括的支援事業及び任意事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、備品購入費、負担金、補助金、扶助費	<u>39/100</u>	包括的支援事業及び任意事業	<u>給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。</u> <u>ただし、小規模市町村は、300万円とすることができる。</u>	包括的支援事業及び任意事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、備品購入費、負担金、補助金、扶助費	<u>39.5/100</u>

改正後（新）				改正前（旧）			
	<p><u>て得た額とする（以下「原則の上限額」という。）。</u></p> <p><u>なお、以下の(ア)と(イ)の両方の取組を推進する市町村については、上記の計算式に代えて次の計算式により基準額（下記の①と②の合計額。以下「特例の上限額」という。）を算出することを可能とする。一部事務組合及び広域連合においては、構成市町村ごとに計算した額の合計額を基準額とする（平成27年度から29年度までに原則の上限額又は特例の上限額を選択可。）。</u></p> <p><u>(ア) 少なくとも介護給付適正化の主要5事業（介護保険法施行令附則第8条第1項の規定に基づき、厚生労働大臣が定める主要介護給付等費用適正化事業（平成20年厚生労働省告示第31号）に掲げる事業をいう。）を全て実施していること。</u></p> <p><u>(イ) 介護予防・日常生活支援総合事業を実施していること。</u></p> <p>※ 平成26年度の包括的支援</p>						

改正後（新）				改正前（旧）			
	<p><u>事業・任意事業の上限額が12,500千円未満の市町村は(ア)の要件を満たさなくても可。</u></p> <p><u>① 地域包括支援センターの運営</u></p> <p><u>25,000千円に当該市町村の65歳以上高齢者数を4,500で除した値を乗じた額</u></p> <p><u>※ただし、この計算の結果が12,500千円以下の場合は12,500千円とする。</u></p> <p><u>② 任意事業の実施</u></p> <p><u>930円に当該市町村の65歳以上高齢者数を乗じて得た額</u></p> <p><u>なお、特例の上限額の範囲内であれば、地域包括支援センターの運営に係る費用は①により算出される額を超えても差し支えない。一方、任意事業の実施に係る費用は、以下の(a)又は(b)のいずれか高い金額を超えてはならない。</u></p> <p><u>(a) ②により算出される額</u></p> <p><u>(b) ①及び②の合計額を基準額として選択した年度(=移行年度)の前年度の任意事業実績額×当該市町村の65</u></p>						

改正後（新）				改正前（旧）			
	<p>歳以上高齢者数の伸び率</p> <p>(注) 10月1日時点の住民基本台帳における65歳以上高齢者数の当該年度を除く直近3か年の平均伸び率</p>						
<p>包括的支援事業 (社会保障充実分)</p>	<p>以下の①から④の算定式の合計額を「標準額」とし、これを基本として、各市町村の実情に応じて算定した額で厚生労働大臣が認める額とする。</p> <p>なお、現に実施されていない事業については標準額に含めることはできない。</p> <p>① 実施要綱の別記5の1に掲げる在宅医療・介護連携推進事業</p>			(新設)	(新設)		

改正後（新）				改正前（旧）			
	<p>・(a)及び(b)の合計額</p> <p>(a)1,058千円</p> <p>(b)3,761千円×地域包括支援センター数(注)</p> <p>② 実施要綱の別記5の2に掲げる生活支援体制整備事業</p> <p>・第1層(市町村圏域)8,000千円</p> <p>※ただし、指定都市の場合は、当該額に行政区の数、一部事務組合及び広域連合の場合は、当該額に構成市町村の数を乗じることとする。</p> <p>・第2層(日常生活圏域)4,000千円×日常生活圏域数(法第117条第2項第1号の区域をいう。以下同じ)の数</p> <p>※日常生活圏域が1つである場合は、第2層は算定できない。</p> <p>③ 実施要綱の別記5の3に掲げる認知症総合支援事業</p> <p>・認知症初期集中支援事業10,266千円</p> <p>※ただし、指定都市の場合は、行政区の数、一部事務組合及び広域連合の場合は、当該額に構成市町村の数を乗</p>						

改正後（新）				改正前（旧）			
	<p><u>じることとする。</u></p> <p><u>・認知症地域支援・ケア向上事業 6,802 千円</u></p> <p><u>※ ただし、一部事務組合及び広域連合の場合は、当該額に構成市町村の数を乗じることとする。</u></p> <p><u>④ 実施要綱の別記 5 の 4 に掲げる地域ケア会議推進事業</u></p> <p><u>・1,272 千円× 地域包括支援センター数(注)</u></p> <p><u>(注) 法第 115 条の 46 第 1 項に規定する地域包括支援センターをいう。</u></p>						
<u>(削除)</u>				<p><u>(3) 政令附則第 18 条に規定する平成 26 年度において法第 115 条の 45 第 3 項第 3 号に掲げる事業のうち認知症である被保険者に対する支援又は被保険者の地域における自立した日常生活の支援に係る体制の整備の促進を行う事業として厚生労働大臣が定めるものを拡充しようとする市町村又は新たに実施しようとする市町村であって、3 の(1)に掲げる市町村の場合については、次により算定するものとする。</u></p> <p><u>ア 次の表の第 1 欄に定める区分ごとに、第 2 欄に定める基準額と第 3 欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。ただし、基準額の合計は、給付見込額に 0.03 を乗じて得た額とするが、政令第 37 条の 13 第 3 項各号に該当する市町村にあっては、次に定める額とすることができる。</u></p> <p><u>(ア) 給付見込額に 0.015 を乗じて得た額が 300 万円に満たない市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を 2,800 万円を超えない範囲で、厚生労働大臣が相当と認める額とした場合にあっては、給付見込額に 0.015 を乗じて得た額に 2,800 万円を超えない範囲で厚生労働大臣が相当と認める額を加えた額とする。</u></p> <p><u>(イ) 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に 0.03 を乗じて得た額を超え</u></p>			

改正後（新）	改正前（旧）								
<p><u>（削除）</u></p>	<p>る場合（厚生労働大臣が特に必要と認める場合に限るものとし、（ア）の適用を受けるものを除く。）にあつては、給付見込額に0.04を乗じて得た額に、2,500万円を加えた額を超えない範囲で厚生労働大臣が相当と認める額とする。</p> <p><u>イ</u> <u>ア</u>により選定された額に、第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。</p> <p><u>(4)</u> <u>政令附則第18条</u>に規定する平成26年度において<u>法第115条の45第3項第3号</u>に掲げる事業のうち認知症である被保険者に対する支援又は被保険者の地域における自立した日常生活の支援に係る体制の整備の促進を行う事業として厚生労働大臣が定めるものを拡充しようとする市町村又は新たに実施しようとする市町村であつて、<u>3の(2)</u>に掲げる市町村の場合については、次により算定するものとする。</p> <p><u>ア</u> 次の表の第1欄に定める区分ごとに、第2欄に定める基準額と第3欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。ただし、基準額の合計は、給付見込額に0.03を乗じて得た額に2,500万円を加えた額を超えない範囲で厚生労働大臣が相当と認める額（小規模市町村が包括的支援事業及び任意事業の基準額を2,800万円を超えない範囲で厚生労働大臣が相当と認める額とした場合にあつては、給付見込額に0.015を乗じて得た額に2,800万円を超えない範囲で厚生労働大臣が相当と認める額を加えた額）とする。</p> <p><u>イ</u> <u>ア</u>により選定された額に、第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。</p>								
<p><u>（削除）</u></p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1137 1002 1308 1043">1 区分</th> <th data-bbox="1308 1002 1626 1043">2 基準額</th> <th data-bbox="1626 1002 1928 1043">3 対象経費</th> <th data-bbox="1928 1002 2085 1043">4 交付率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1137 1043 1308 1391"> 介護予防・日常生活支援総合事業 </td> <td data-bbox="1308 1043 1626 1391"> 給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。 ただし、<u>政令第37条の13第3項各号</u>に該当する市町村にあつては、次に定める額とすることができる。 <u>①</u> 小規模市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を2,800万円を </td> <td data-bbox="1626 1043 1928 1391"> 介護予防・日常生活支援総合事業又は介護予防事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料（介護予防のための器具等をレンタル又はリースする場合は、購入する場合の単価が10万円以下のものに限 </td> <td data-bbox="1928 1043 2085 1391"> 25/100 </td> </tr> </tbody> </table>	1 区分	2 基準額	3 対象経費	4 交付率	介護予防・日常生活支援総合事業	給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。 ただし、 <u>政令第37条の13第3項各号</u> に該当する市町村にあつては、次に定める額とすることができる。 <u>①</u> 小規模市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を2,800万円を	介護予防・日常生活支援総合事業又は介護予防事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料（介護予防のための器具等をレンタル又はリースする場合は、購入する場合の単価が10万円以下のものに限	25/100
1 区分	2 基準額	3 対象経費	4 交付率						
介護予防・日常生活支援総合事業	給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。 ただし、 <u>政令第37条の13第3項各号</u> に該当する市町村にあつては、次に定める額とすることができる。 <u>①</u> 小規模市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を2,800万円を	介護予防・日常生活支援総合事業又は介護予防事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料（介護予防のための器具等をレンタル又はリースする場合は、購入する場合の単価が10万円以下のものに限	25/100						

改正後（新）	改正前（旧）	
		<p>超えない範囲で、厚生労働大臣が相当と認める額とした場合は、給付見込額に0.015を乗じて得た額とする。</p> <p>② 介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の予想額が給付見込額に0.02を乗じて得た額を超える場合（厚生労働大臣が特に必要と認める場合に限るものとし、①の適用を受けるものを除く。）にあつては、次に定める額とする。</p> <p>③ 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超えない場合は、当該額から包括的支援事業及び任意事業に要する費用の額を控除して得た額とする。</p> <p>④ 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超える場合は、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超えない範囲で、厚生労働</p> <p>る。)、備品購入費(介護予防のための器具等を購入する場合は、単価10万円以下のものに限る。)、負担金、補助金 なお、給料、職員手当等及び共済費については、二次予防事業のうち、通所型介護予防事業及び訪問型介護予防事業(介護予防・日常生活支援総合事業を行う場合にあつては、二次予防事業対象者に対する予防サービス事業のうち、通所型予防サービス及び訪問相談・指導)に従事する保健師に係る経費を除く。</p>

改正後（新）	改正前（旧）		
		<p>大臣が相当と認める額とする。</p>	
	<p>介護予防事業</p>	<p>給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。</p> <p>ただし、小規模市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を2,800万円を超えない範囲で厚生労働大臣が相当と認める額とした場合は、給付見込額に0.015を乗じて得た額とする。</p>	
	<p>包括的支援事業及び任意事業</p>	<p>給付見込額に0.02を乗じて得た額に2,500万円を加えた額を超えない範囲で厚生労働大臣が相当と認める額とする。</p> <p>ただし、小規模市町村は、2,800万円を超えない範囲で厚生労働大臣が相当と認める額とすることができる。</p> <p>なお、次に掲げる事業は、それぞれ次に掲げる額を超えない範囲で厚生労働大臣が相当と認める額とする。</p> <p>① 実施要綱の別記1第2の3(5)アに掲げる事業 10,200千円</p> <p>② 実施要綱の別記1第2の3(5)イに掲げる事業 5,600千円</p> <p>③ 実施要綱の別記1第2の</p>	<p>包括的支援事業及び任意事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、備品購入費、負担金、補助金、扶助費</p> <p>39.5/100</p>

改正後（新）	改正前（旧）			
<p>5 （略）</p> <p>（交付の条件）</p> <p>6 この交付金の交付の決定には、次の条件が付されるものとする。</p> <p>(1) 事業に要する経費の配分の変更はしてはならない。</p> <p>(2) 事業の内容の変更（軽微な変更を除く。）をする場合には、厚生労働大臣の承認を受けなければならない。</p> <p>(3) 事業を中止し、又は廃止する場合には、厚生労働大臣の承認を受けなければならない。</p> <p>(4) 事業が予定の期間内に完了しない場合又は事業の遂行が困難となった場合には、速やかに厚生労働大臣に報告してその指示を受けなければならない。</p> <p>(5) 事業により取得し、又は効用の増加した価格が単価 50 万円以上の機械、器具及び<u>その他の財産</u>については、適正化令第 14 条第 1 項第 2 号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過するまで、厚生労働大臣の承認を受けず、この交付金の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、又は廃棄してはならない。</p> <p>(6) 厚生労働大臣の承認を受けて財産を処分することにより収入があった場合には、その収入の全部又は一部を国庫に納付させることがある。</p> <p>(7) 事業により取得し、又は効用の増加した財産については、事業完了後においても善良な管理者の注意をもって管理するとともに、その効率的な運営を図らなければならない。</p> <p>(8) 交付金と事業に係る予算及び決算との関係を明らかにした別紙様式第 1 による調書を作成するとともに、事業に係る歳入及び歳出について証拠書類を整理し、かつ調書及び証拠書類を<u>交付金の額の確定</u>の日（事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日）の属する年度の終了後 5 年間保管しておかななければならない。<u>ただし、事業により取得し、又は効用の増加した財産がある場合は、前記の期間を経過後、当該財産の財産処分が完了する日、又は適正化令第 14 条第 1 項第 2 号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過する日のいずれか遅い日まで保管しておかななければならない。</u></p>		<p>3（5）ウに掲げる事業 1,200 千円</p> <p>④実施要綱の別記 1 第 2 の 3（5）エに掲げる事業 8,000 千円</p>		
	<p>5 （略）</p> <p>（交付の条件）</p> <p>6 この交付金の交付の決定には、次の条件が付されるものとする。</p> <p>(1) 事業に要する経費の配分の変更はしてはならない。</p> <p>(2) 事業の内容の変更（軽微な変更を除く。）をする場合には、厚生労働大臣の承認を受けなければならない。</p> <p>(3) 事業を中止し、又は廃止する場合には、厚生労働大臣の承認を受けなければならない。</p> <p>(4) 事業が予定の期間内に完了しない場合又は事業の遂行が困難となった場合には、速やかに厚生労働大臣に報告してその指示を受けなければならない。</p> <p>(5) 事業により取得し、又は効用の増加した価格が単価 5 0 万円以上の機械及び器具については、適正化令第 1 4 条第 1 項第 2 号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過するまで、厚生労働大臣の承認を受けず、この交付金の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、又は廃棄してはならない。</p> <p>(6) 厚生労働大臣の承認を受けて財産を処分することにより収入があった場合には、その収入の全部又は一部を国庫に納付させることがある。</p> <p>(7) 事業により取得し、又は効用の増加した財産については、事業完了後においても善良な管理者の注意をもって管理するとともに、その効率的な運営を図らなければならない。</p> <p>(8) 交付金と事業に係る予算及び決算との関係を明らかにした別紙様式第 1 による調書を作成するとともに、事業に係る歳入及び歳出について証拠書類を整理し、かつ調書及び証拠書類を事業の完了の日（事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日）の属する年度の終了後 5 年間保管しておかななければならない。</p>			

改正後（新）	改正前（旧）
<p>(申請手続)</p> <p>7 この交付金の交付の申請は、次により行うものとする。</p> <p>(1) 適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合</p> <p>ア 市町村の長は、<u>別紙様式第 2</u>を、関係書類とともに、都道府県知事が定める日までに都道府県知事に提出するものとする。</p> <p>イ 都道府県知事は、アの申請書を受理したときは、これを審査し、取りまとめのうえ、別紙様式第 <u>8</u>により関係書類を添えて、別に定める日までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p> <p>(2) (1)以外の場合</p> <p>市町村の長は、別紙様式第 2 を、関係書類とともに、別に定める日までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p> <p>(変更申請手続)</p> <p>8 この交付金の交付決定後の事情の変更により申請の内容を変更して追加交付申請等を行う場合には、次により行うものとする。</p> <p>(1) 適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合</p> <p>ア 市町村の長は、別紙様式第 3 を、関係書類とともに、都道府県知事が定める日までに都道府県知事に提出するものとする。</p> <p>イ 都道府県知事は、アの申請書を受理したときは、これを審査し、取りまとめのうえ、別紙様式第 <u>8</u>により関係書類を添えて、毎年度 1 月末日までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p> <p>(2) (1)以外の場合</p> <p>市町村の長は、別紙様式第 3 を、関係書類とともに、毎年度 1 月末日までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p>	<p>(申請手続)</p> <p>7 この交付金の交付の申請は、次により行うものとする。</p> <p>(1) 適正化法第 2 6 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合</p> <p>ア 市町村の長は、<u>3の(1)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 2 を、また 3の(2)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 8 を</u>、関係書類とともに、都道府県知事が定める日までに都道府県知事に提出するものとする。</p> <p>イ 都道府県知事は、アの申請書を受理したときは、これを審査し、取りまとめのうえ、別紙様式第 <u>1 4</u>により関係書類を添えて、別に定める日までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p> <p>(2) (1)以外の場合</p> <p>市町村の長は、<u>3の(1)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 2 を、また 3の(2)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 8 を</u>、関係書類とともに、別に定める日までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p> <p>(変更申請手続)</p> <p>8 この交付金の交付決定後の事情の変更により申請の内容を変更して追加交付申請等を行う場合には、次により行うものとする。</p> <p>(1) 適正化法第 2 6 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合</p> <p>ア 市町村の長は、<u>3の(1)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 3 を、また 3の(2)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 9 を</u>、関係書類とともに、都道府県知事が定める日までに都道府県知事に提出するものとする。</p> <p>イ 都道府県知事は、アの申請書を受理したときは、これを審査し、取りまとめのうえ、別紙様式第 <u>1 4</u>により関係書類を添えて、毎年度 1 月末日までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p> <p>(2) (1)以外の場合</p> <p>市町村の長は、<u>3の(1)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 3 を、また 3の(2)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 9 を</u>、関係書類とともに、毎年度 1 月末日までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p>

改正後（新）	改正前（旧）
<p>9 （略）</p> <p>（交付決定の通知）</p> <p>10 適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合、都道府県知事は、この交付金について厚生労働大臣の交付決定（決定の変更を含む。）があったときには、市町村の長に対し、別紙様式第 5 又は別紙様式第 6 により、速やかに交付決定内容及びこれに付された条件の通知を行うものとする。</p> <p>（実績報告）</p> <p>11 この交付金の事業実績報告は、次により行うものとする。</p> <p>（1）適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合</p> <p>ア 市町村の長は、別紙様式第 4 を、関係書類とともに、都道府県知事が定める日までに都道府県知事に提出するものとする。</p> <p>イ 都道府県知事は、アの書類を受理したときは、これを審査し、取りまとめのうえ、別紙様式第 8 により関係書類を添えて、翌年度 6 月末日（6 の(3)により事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、当該承認通知を受理した日から起算して 1 月を経過した日）までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p> <p>（2）(1)以外の場合</p> <p>市町村の長は、別紙様式第 4 を、関係書類とともに、翌年度 6 月末日（6 の(3)により事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、当該承認通知を受理した日から起算して 1 月を経過した日）までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p> <p>（交付金の額の確定の通知）</p> <p>12 適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合、都道府県知事は、この交付金について厚生労働大臣の交付額の確定があったときには、市町村の長に対し、別紙様式第 7 により、速やかに確定の通知を行うものとする。</p>	<p>9 （略）</p> <p>（交付決定の通知）</p> <p>10 適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合、都道府県知事は、この交付金について厚生労働大臣の交付決定（決定の変更を含む。）があったときには、市町村の長に対し、<u>3 の(1)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 5 又は別紙様式第 6 により、また 3 の(2)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 1 1 又は別紙様式第 1 2 により、</u>速やかに交付決定内容及びこれに付された条件の通知を行うものとする。</p> <p>（実績報告）</p> <p>11 この交付金の事業実績報告は、次により行うものとする。</p> <p>（1）適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合</p> <p>ア 市町村の長は、<u>3 の(1)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 4 を、また 3 の(2)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 1 0 を、</u>関係書類とともに、都道府県知事が定める日までに都道府県知事に提出するものとする。</p> <p>イ 都道府県知事は、アの書類を受理したときは、これを審査し、取りまとめのうえ、別紙様式第 1 4 により関係書類を添えて、翌年度 6 月末日（6 の(3)により事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、当該承認通知を受理した日から起算して 1 月を経過した日）までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p> <p>（2）(1)以外の場合</p> <p>市町村の長は、<u>3 の(1)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 4 を、また 3 の(2)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 1 0 を、</u>関係書類とともに、翌年度 6 月末日（6 の(3)により事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、当該承認通知を受理した日から起算して 1 月を経過した日）までに厚生労働大臣に提出するものとする。</p> <p>（交付金の額の確定の通知）</p> <p>12 適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合、都道府県知事は、この交付金について厚生労働大臣の交付額の確定があったときには、市町村の長に対し、<u>3 の(1)に定める事業を実施する場合は別紙様式第 7 により、また 3 の(2)に定</u></p>

改正後（新）	改正前（旧）
13 （略） 14 （略） 別紙様式第 1 （略）	<p data-bbox="1167 225 2029 248">める事業を実施する場合は別紙様式第 1 3 により、速やかに確定の通知を行うものとする。</p> 13 （略） 14 （略） 別紙様式第 1 （略）

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2

別紙様式第2

別紙様式第2

第 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣 殿

市 町 村 長
広域連合代表
組 合 長

印

平成 年度地域支援事業交付金の交付申請について

標記について、次により交付金を交付されるよう関係書類を添えて申請する。

1 交付金申請額	金	円
内訳 介護予防・日常生活支援総合事業	金	円
旧介護予防・日常生活支援総合事業		
又は旧介護予防事業	金	円
包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)		
及び任意事業	金	円
包括的支援事業(社会保障充実分)	金	円

2 添付書類(以下該当する様式のみを添付すること)

全事業共通

- (1) 平成 年度地域支援事業交付金所要額調(様式1)
- (2) 平成 年度任意事業実施計画書(様式2)
- (3) 平成 年度包括的支援事業(社会保障充実分)計画書(様式3)
- (4) 平成 年度歳入歳出予算書(見込書)抄本

介護予防・日常生活支援総合事業実施市町村で該当がある場合のみ

- (5) 平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業の上限引き上げに係る事業実施計画書(様式1の(1)別添1)
- (6) 平成 年度包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業の特例上限額適用に係る事業実施計画書(様式4)

旧介護予防・日常生活支援総合事業実施市町村で該当がある場合のみ

- (7) 平成 年度旧介護予防・日常生活支援総合事業の上限引き上げに係る事業実施計画書(様式5)

別紙様式第2(介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村) ..

..

第 号
平成 年 月 日 ..

厚生労働大臣 殿 ..

市 町 村 長 ..
広域連合代表
組 合 長 ..

印 ..

平成 年度地域支援事業交付金の交付申請について ..

..

標記について、次により交付金を交付されるよう関係書類を添えて申請する ..

..

1 交付金申請額	金	円 ..
内訳 介護予防・日常生活支援総合事業	金	円 ..
包括的支援事業及び任意事業	金	円 ..

2 添付書類 ..

- (1) 平成 年度地域支援事業交付金所要額調(様式1) ..
- (2) 平成 年度任意事業実施計画書(様式2) ..
- (3) 平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業実施計画書(様式3) ..
- (4) 平成 年度地域支援事業上限引き上げに係る事業実施計画書(様式4) ..
(政令第37条の13第3項第2号に該当する市町村のみ提出すること。)
- (5) 平成 年度歳入歳出予算書(見込書)抄本 ..

保 険 者 名
都道府県コード ..	市区町村コード ..
..	..

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2に統合

別紙様式第8

別紙様式第8（介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村）

第 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣 殿

市 町 村 長
広域連合代表
組 合 長

平成 年度地域支援事業交付金の交付申請について

標記について、次により交付金を交付されるよう関係書類を添えて申請する。

1 交付金申請額

金	円
内訳 介護予防事業	金 円
包括的支援事業及び任意事業	金 円

2 添付書類

(1) 平成 年度地域支援事業交付金所要額明（様式1）

(2) 平成 年度任意事業実施計画書（様式2）

(3) 平成 年度歳入歳出予算書（見込書）抄本

保 険 者 名	
都道府県コード	市区町村コード

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2様式1の(1)

新規様式

別紙様式第2様式1の(1)介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村

平成 年度地域支援事業交付金所要額調

区 分	総事業費 A 円	交付金以外の 収入額 B 円	差引額 C(A-B) 円	対象経費 支出予定額 D 円	基準額 E 円	交付基本額 F 円	交付所要額 G 円	備 考
1 介護予防・日常生活支援総合事業								
(1) 訪問型サービス(第1号訪問事業)								
ア 訪問介護福祉サービス								
イ 訪問型サービス(認知した基準によるサービス)								
ロ 訪問型サービス(任意主体による実施)								
ハ 訪問型サービス(短期集中予防サービス)								
ニ 訪問型サービスの(移動実施)								
ホ その他								
(2) 通所型サービス(第1号通所事業)								
ア 通所介護福祉サービス								
イ 通所型サービス(認知した基準によるサービス)								
ロ 通所型サービス(任意主体による実施)								
ハ 通所型サービス(短期集中予防サービス)								
ニ その他								
(3) その他の生活支援サービス(第1号生活支援事業)								
ア 実態改善を目的とした対応								
イ 安穏的な生活環境及び緊急時の対応								
ロ 訪問型サービス・通所型サービスの一時的提供等								
ハ その他								
(4) 介護予防ケアマネジメント(第1号介護予防支援事業)								
ア 要介護私手助料								
イ 要介護私手助料サービス費相当事業等								
(7) 一般介護予防事業								
ア 介護予防的把握事業								
イ 介護予防普及啓発事業								
ロ 地域介護予防活動支援事業								
ハ 一般介護予防事業評価事業								
ニ 地域ハビテーション活動支援事業								
2 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業								
(1) 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)								
(2) 任意事業								
ア 介護予防専用品調達正化事業								
イ 要介護支援事業								
ロ その他								
イ ア) 成年後見制度利用支援事業								
イ イ) 福祉用具・住宅改修支援事業								
イ ロ) 認知症対応型共同生活介護事業所の運営等助成事業								
イ ハ) 認知症サポート事業								
イ ニ) 介護のAL(活動費)の負担におけるコミュニケーション支援事業								
イ ホ) 地域自立生活支援事業								
3 介 計(1+2)								
4 包括的支援事業(社会保険労務分)								
(1) 在宅医療・介護連携推進事業								
(2) 生活支援体制整備事業								
(3) 認知症対応型集中支援推進事業								
(4) 認知症地域支援・ケア向上事業								
(5) 地域ケア連携推進事業								
5 合 計(3+4)								

(注) 1 自欄には、交付要額4(1)~(4)交付金その他の収入額を記入すること。
 2 自欄には、交付要額4に定める基準額を記入すること。
 3 F欄には、C、D、E及びH欄に於いて算出された収入額を記入すること。
 4 G欄には、F欄の額に交付要額4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額(1円未満の端数は切り上げ)を記入すること。

1. 総合事業	個別協議の有無	10. 総合事業調整交付金
2. 包括的支援事業(社会保険労務分)		11. 調整基礎額等調整率
		12. 総合事業調整交付率

1. 介護事業	
2. 地域包括支援事業	
3. 任意事業	

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2様式1の(1)別添1

新規様式

平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施計画書

介護予防・日常生活支援総合事業(交付要綱3の(1)のアの事業)

実施主体	〇〇市	
実施時期	年 月 日から実施	
対象経費支出予定額		円
上限額		
(1) 原則の上限額		円
(2) 選択可能な上限額(給付全体)		円
(3) (1)の10%特例選択		円
(4) (2)の10%特例選択		円
上限超過の理由(以下の理由に該当する箇所に○を付け、具体的な内容を記載すること)		
	介護予防に効果的なプログラムを新たに導入等	
	介護予防や生活支援サービスの供給体制が近隣市町村と比較して著しく不足等	
	小規模市町村で通いの場の新たな整備等	
	その他	
内容 (具体的に 記載)		

※ 上限額引き上げは、当該年度一時的に費用が伸びるが、住民主体の取組が促進され、費用の伸びが低減する見込みがあることが前提。
 ※ 上限超過の理由として、該当箇所に○を付けた場合には以下の点に留意の上、具体的に内容を記載すること。個別協議については、理由によっては認められない場合もあるので留意すること。
 ・介護予防に効果的なプログラムを新たに導入・・・具体的に新たに導入したプログラム内容を具体的に記載すること。なお、原則として導入した年度のみ個別協議が認められるものとするが、やむを得ない理由がある場合はこの限りではない。
 ・介護予防や生活支援サービスの供給体制が近隣市町村と比較して著しく不足・・・県内の市町村との比較が隣接市町村との比較かなど具体的な比較方法を数値も含めて記載する。
 ・小規模市町村で通いの場の新たな整備・・・整備に要した額を具体的に記載する。
 ・その他・・・内容が詳細に分かるように具体的に記載する。

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2様式1の(2)

別紙様式第2様式1

別紙様式第2様式1の(2)（介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村）

平成 年度地域支援事業交付金所要額調

区 分	総事業費	寄付金その他の収入額	差引額 C(A-B)	対象経費 支出予定額	基準額	交付基本額	交付金所要額	備 考
1 介護予防・日常生活支援総合事業								
(1) 要支援者向け事業								
ア 予防サービス事業及び生活支援サービス事業								
イ ケアマネジメント事業								
ウ 評価事業								
(2) 二次予防事業対象者向け事業								
ア 二次予防事業対象者の把握事業								
イ 予防サービス事業及び生活支援サービス事業								
ウ ケアマネジメント事業								
エ 評価事業								
(3) 一次予防事業対象者向け事業								
ア 介護予防普及啓発事業								
イ 地域介護予防活動支援事業								
ウ 一次予防事業評価事業								
エ 地域リハビリテーション活動支援事業								
(4) 寄託支払手数料								
(5) 総合事業費積立金								
2 包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）及び任意事業								
(1) 包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）								
(2) 任意事業								
ア 介護給付等費用適正化事業								
イ 家族介護支援事業								
ウ その他の事業								
（ア）成年後見制度利用支援事業								
（イ）福祉用具・住宅改修支援事業								
（ウ）認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業								
（エ）認知症サポーター等養成事業								
（オ）遺棄の4人畜舎の人物におけるコミュニケーション支援事業								
（カ）地域自立生活支援事業								
3 小 計(1+2)								
4 包括的支援事業（社会保障充実分）								
(1) 在宅医療・介護連携推進事業								
(2) 生活支援体制整備事業								
(3) 認知症初期集中支援推進事業								
(4) 認知症地域支援・ケア向上事業								
(5) 地域ケア協議会推進事業								
5 合 計(3+4)								

(注) 1 B欄には、交付要綱4の(1)寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 3 F欄には、C欄、D欄及びE欄を合計して最も少ない額を記入すること。
 4 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額（1円未満の端数がある場合は、これを切り捨てること。）を記入すること。

給付見込額	円
-------	---

送附先名	
郵便番号	
〒	
市区町村	
CD	

様式1（介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村）

平成 年度地域支援事業交付金所要額調

区 分	総事業費	寄付金その他の収入額	差引額 C(A-B)	対象経費 支出予定額	基準額	交付基本額	交付金所要額	備 考
1 介護予防・日常生活支援総合事業								
(1) 要支援者向け事業								
ア 予防サービス事業及び生活支援サービス事業								
イ ケアマネジメント事業								
ウ 評価事業								
(2) 二次予防事業対象者向け事業								
ア 二次予防事業対象者の把握事業								
イ 予防サービス事業及び生活支援サービス事業								
ウ ケアマネジメント事業								
エ 評価事業								
(3) 一次予防事業対象者向け事業								
ア 介護予防普及啓発事業								
イ 地域介護予防活動支援事業								
ウ 一次予防事業評価事業								
(4) 寄託支払手数料								
2 包括的支援事業及び任意事業								
(1) 包括的支援事業（介護予防ケアマネジメント業務を除く。）								
(2) 任意事業								
ア 介護給付等費用適正化事業								
イ 家族介護支援事業								
ウ その他の事業								
（ア）成年後見制度利用支援事業								
（イ）福祉用具・住宅改修支援事業								
（ウ）認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業								
（エ）地域自立生活支援事業								
（オ）その他								
3 小 計(1+2)								
4 新規事業計（任意事業）								
(1) 認知症初期集中支援推進事業								
(2) 認知症地域支援推進員等設置事業								
(3) 認知症ケア向上推進事業								
(4) 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業								
包括的支援事業・任意事業・新規事業 交付基本額(2+4)								
5 合 計(3+4)								

(注) 1 B欄には、交付要綱4の(1)寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 基準額（E欄）の算定に当たり、政令第7条の13第1項及び同条第2項に規定する給付見込額を記入すること。
 3 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 4 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
 5 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額（1円未満の端数がある場合は、これを切り捨てること。）を記入すること。

給付見込額	円
-------	---

送附先名	
郵便番号	
〒	
市区町村	
CD	

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2様式1の(3)

別紙様式第8様式1

別紙様式第2様式1の(3)（介護予防事業を実施する市町村）

平成 年度地域支援事業交付金所要額調

区分	総事業費	寄付金その他の収入額	差引額	対象経費支出予定額	基準額	交付基本額	交付金所要額	備考
	A	B	C(A-B)	D	E	F	G	
1 介護予防事業								
(1) 二次予防事業								
ア 二次予防事業の対象者把握事業								
イ 通所型介護予防事業								
ウ 訪問型介護予防事業								
エ 二次予防事業評価事業								
(2) 一次予防事業								
ア 介護予防普及啓発事業								
イ 地域介護予防活動支援事業								
ウ 一次予防事業評価事業								
エ 地域リハビリテーション活動支援事業								
(3) 総合事業費精算金								
2 包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）及び任意事業								
(1) 包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）								
(2) 任意事業								
ア 介護給付等費用適正化事業								
イ 家族介護支援事業								
ウ その他の事業								
（ア）成年後援制度利用支援事業								
（イ）福祉用具・住宅改修支援事業								
（ロ）認知症対応型共同生活介護事業所の運営等助成事業								
（ハ）認知症サポーター等養成事業								
（ニ）重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業								
（ホ）地域自立生活支援事業								
3 小 計(1+2)								
4 包括的支援事業（社会福祉充実）								
(1) 在宅介護・介護連携推進事業								
(2) 生活支援体制整備事業								
(3) 認知症初期集中支援推進事業								
(4) 認知症地域支援・ケア向上事業								
(5) 地域ケア連携推進事業								
5 合 計(3+4)								

(注) 1 目標には、交付要綱4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 3 F欄には、C欄、D欄及びE欄を合計して最も少ない額を記入すること。
 4 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額（1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。）を記入すること。

総事業費	
寄付金等収入	
差引額	
C-D	

交付金所要額 円

別紙様式第8様式1

平成 年度地域支援事業交付金所要額調

区分	総事業費	寄付金その他の収入額	差引額	対象経費支出予定額	基準額	交付基本額	交付金所要額	備考
	A	B	C(A-B)	D	E	F	G	
1 介護予防事業								
(1) 二次予防事業								
ア 二次予防事業の対象者把握事業								
イ 通所型介護予防事業								
ウ 訪問型介護予防事業								
エ 二次予防事業評価事業								
(2) 一次予防事業								
ア 介護予防普及啓発事業								
イ 地域介護予防活動支援事業								
ウ 一次予防事業評価事業								
2 包括的支援事業及び任意事業								
(1) 包括的支援事業								
(2) 任意事業								
ア 介護給付等費用適正化事業								
イ 家族介護支援事業								
ウ その他の事業								
（ア）成年後援制度利用支援事業								
（イ）福祉用具・住宅改修支援事業								
（ロ）認知症対応型共同生活介護事業所の運営等助成事業								
（ハ）認知症サポーター等養成事業								
（ニ）重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業								
（ホ）地域自立生活支援事業								
（オ）その他								
3 小 計(1+2)								
4 新規事業計（任意事業）								
(1) 認知症初期集中支援推進事業								
(2) 認知症地域支援推進員等設置事業								
(3) 認知症ケア向上推進事業								
(4) 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業								
5 合 計(3+4)								

(注) 1 目標には、交付要綱4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 基準額（E欄）の算定に当たり、改正前（旧）第13条第1項及び同条第2項に規定する給付見込額を記入すること。
 3 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 4 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
 5 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額（1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。）を記入すること。

総事業費	
寄付金等収入	
差引額	
C-D	

交付金所要額 円

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2様式2

別紙様式2様式2の(1)

別紙様式第2様式2

様式2の(1) (介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村)

平成 年度任意事業実施計画書

平成 年度任意事業実施計画書

任意事業（交付要綱3の(1)、(2)、(3)のウの事業）

任意事業（交付要綱3の(1)のウの事業）

介護保険法第115条の45第3項に基づく事業	ア 介護給付等費用適正化事業	
	イ 家族介護支援事業	
	ウ その他の事業	
	実施主体	〇〇市
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
事業費	円	
事業名 (事業費)	事業内容	実施目標
(円)		
(円)		
(円)		
(円)		
(円)		

介護保険法第115条の45第3項に基づく事業	ア 介護給付等費用適正化事業	
	イ 家族介護支援事業	
	ウ その他事業	
	実施主体	
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
事業費	円	
具体的な事業名、事業内容及び事業費		

(注)

- 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～ウの該当する事業の記号に「○」を付けること。また、ア～ウの事業を複数実施している場合は、別業で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 「事業費」には、対象経費支出予定額を記入すること。
- 「事業名（事業費）」には、様式2別添より選択し、番号のみ記入すること。
- 「事業内容」には、ア～ウの各事業の事業内容を具体的かつ簡潔に記入すること。
- 「実施目標」には、ア～ウの各事業が1年間で達成すべき目標について、定量的・定性的な観点から記入すること。

(注)

- 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～ウの該当する事業の記号に「○」を付けること。
また、ア～ウの事業を複数実施している場合は、別様で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 「事業費」には、対象経費支出予定額を記入すること。
- 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」には、ア～ウの各事業における具体的な取組毎に記入すること。
- 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」に事業内容を記載する際、具体的かつ簡潔に記入すること。

保険者名		
都道府県コード	市区町村コード	C-D

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2様式2に統合

別紙様式第8様式2の(1)

様式2の(1) (介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村)

平成 年度 任意事業実施計画書

任意事業（交付要綱3の(2)のウの事業）

介護保険法第115条 の45第3項に基づく 事業	ア 介護給付等費用適正化事業
	イ 家族介護支援事業
	ウ その他事業
実施主体	
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
事業費	円
具体的な事業 名、事業内容 及び事業費	

(注)

- 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～ウの該当する事業の記号に「○」を付けること。
また、ア～ウの事業を複数実施している場合は、別様で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 「事業費」には、対象経費支出予定額を記入すること。
- 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」には、ア～ウの各事業における具体的な取組毎に記入すること。
- 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」に事業内容を記載する際、具体的かつ簡潔に記入すること。

保険者名		
都道府県コード	市区町村コード	C・D

改正後（新）	改正前（旧）						
<p>別紙様式第2様式2別添</p> <p>別紙様式第2様式2別添</p> <p style="text-align: center;">任意事業</p> <table border="1" data-bbox="152 391 1068 1136"> <tr> <td data-bbox="152 391 465 630">介護給付等費用適正化事業</td> <td data-bbox="465 391 1068 630"> ① 認定調査状況チェック ② ケアプランの点検 ③ 住宅改修等の点検 ④ 医療情報との突合・縦覧点検 ⑤ 介護給付費通知 ⑥ 給付実績を活用した分析・検証事業 ⑦ 介護サービス事業者等への適正化支援事業 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="152 630 465 831">家族介護支援事業</td> <td data-bbox="465 630 1068 831"> ⑧ 介護教室の開催 ⑨ 認知症高齢者見守り事業 ⑩ 健康相談・疾病予防等事業 ⑪ 介護者交流会の開催 ⑫ 介護自立支援事業 ⑬ 介護用品の支給 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="152 831 465 1136">その他の事業</td> <td data-bbox="465 831 1068 1136"> ⑭ 成年後見制度利用支援事業 ⑮ 福祉用具・住宅改修支援事業 ⑯ 認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業 ⑰ 認知症サポーター等養成事業 ⑱ 重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業 ⑲ 高齢者の安心な住まいの確保に資する事業 ⑳ 介護サービスの質の向上に資する事業 ㉑ 地域資源を活用したネットワーク形成に資する事業 ㉒ 家庭内の事故等への対応の体制整備に資する事業 </td> </tr> </table>	介護給付等費用適正化事業	① 認定調査状況チェック ② ケアプランの点検 ③ 住宅改修等の点検 ④ 医療情報との突合・縦覧点検 ⑤ 介護給付費通知 ⑥ 給付実績を活用した分析・検証事業 ⑦ 介護サービス事業者等への適正化支援事業	家族介護支援事業	⑧ 介護教室の開催 ⑨ 認知症高齢者見守り事業 ⑩ 健康相談・疾病予防等事業 ⑪ 介護者交流会の開催 ⑫ 介護自立支援事業 ⑬ 介護用品の支給	その他の事業	⑭ 成年後見制度利用支援事業 ⑮ 福祉用具・住宅改修支援事業 ⑯ 認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業 ⑰ 認知症サポーター等養成事業 ⑱ 重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業 ⑲ 高齢者の安心な住まいの確保に資する事業 ⑳ 介護サービスの質の向上に資する事業 ㉑ 地域資源を活用したネットワーク形成に資する事業 ㉒ 家庭内の事故等への対応の体制整備に資する事業	<p>新規様式</p>
介護給付等費用適正化事業	① 認定調査状況チェック ② ケアプランの点検 ③ 住宅改修等の点検 ④ 医療情報との突合・縦覧点検 ⑤ 介護給付費通知 ⑥ 給付実績を活用した分析・検証事業 ⑦ 介護サービス事業者等への適正化支援事業						
家族介護支援事業	⑧ 介護教室の開催 ⑨ 認知症高齢者見守り事業 ⑩ 健康相談・疾病予防等事業 ⑪ 介護者交流会の開催 ⑫ 介護自立支援事業 ⑬ 介護用品の支給						
その他の事業	⑭ 成年後見制度利用支援事業 ⑮ 福祉用具・住宅改修支援事業 ⑯ 認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業 ⑰ 認知症サポーター等養成事業 ⑱ 重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業 ⑲ 高齢者の安心な住まいの確保に資する事業 ⑳ 介護サービスの質の向上に資する事業 ㉑ 地域資源を活用したネットワーク形成に資する事業 ㉒ 家庭内の事故等への対応の体制整備に資する事業						

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2様式3

新規様式

別紙様式第2様式3

平成 年度包括的支援事業（社会保障充実分）実施計画書

包括的支援事業（社会保障充実分）（交付要綱3の（1）、（2）、（3）のイの事業）

実施主体	〇〇市									
実施時期	①平成 年 月 日から実施					②平成 年 月 日から実施				
	③平成 年 月 日から実施					④平成 年 月 日から実施				
社会保障充実分 総事業費	円			標準額 (4事業の合計額)		円				
①在宅医療・介護連 携推進事業	事業費	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	
	0円	(イ)等の会議		(オ)の相談窓口	(オ)の相談員等	(カ)多職種研修	(カ)その他の研修			
		0回	0箇所	0人	0回	0回				
②生活支援体制整備 事業	事業費	第1層			第2層					
		コーディネーター	協議体		コーディネーター	協議体				
	0円	0人	0箇所	0人	0箇所					
③認知症総合支援事 業	事業費	認知症初期集中支援チーム設置				認知症地域支援推進員設置				
	0円	0箇所				0箇所				
④地域ケア会議推進 事業	事業費	地域ケア個別会議				地域ケア推進会議				
	0円	0回				0回				
総事業費が標準額を 超過する主な理由										

(注)

- 「事業費」には、対象経費支出予定額を記入すること。「標準額（4事業の合計額）」には、交付要綱4に定める基準額を記載すること。
- 在宅医療・介護連携推進事業の（ア）から（ク）については、実施要綱の事業内容（ア）から（ク）とする。右欄には実施の場合は○、未実施の場合は×を記入すること。
- 「社会保障充実分総事業費」が「標準額（4事業の合計額）」を超過する場合は、「総事業費が標準額を超過する主な理由」に記入すること。

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2様式4

新規様式

別紙様式第2様式4

平成 年度包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業の特例上限額適用に係る事業実施計画書

包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業 (交付要綱3の(1)、(2)、(3)のイ・ウの事業)

実施主体	〇〇市	
①介護予防・日常生活支援総合事業の実施		
実施時期	平成 年 月 日から実施	
②主要介護給付等費用適正化事業		
事業名 (事業費)	事業内容	実施目標
認定調査状況 チェック (円)		
ケアプランの点検 (円)		
住宅改修等の点検 (円)		
医療情報との突合 ・縦覧点検 (円)		
介護給付費通知 (円)		
③小規模自治体に該当		

(注)

- 1 「(事業費)」には、対象経費支出予定額を記入すること。
- 2 「事業内容」には、各事業ごとの事業内容を具体的かつ簡潔に記入すること。
- 3 「実施目標」には、「第3期介護給付適正化計画」に関する指針(平成26年8月29日老介発0829第1号厚生労働省老健局介護保険計画課長通知)に基づき都道府県が策定した第3期適正化計画を踏まえ、市町村が作成した実施目標と整合性が図られていること。
また各事業ごとに1年間で達成すべき目標について、上記指針を踏まえ、定量的・定性的な観点から記入すること。
- 4 ③は平成26年度の包括的支援事業・任意事業の上限額が12,500千円未満の市町村の場合、右欄に○を記入すること。小規模自治体に該当する場合は、◎を記入しなくても可。

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2様式5

別紙様式第2様式4

別紙様式第2様式5（旧介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村）

様式4（政令第37条の13第3項第2号の規定に該当する市町村）

平成 年度旧介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施計画書

平成 年度地域支援事業上限額引き上げに係る事業実施計画書

1 旧介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る理由（該当項目にチェック）

1 地域支援事業上限額引き上げにかかる理由（該当項目にチェック）

- (ア) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え、
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。
- (イ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え、
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超えない。
- (ウ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え、
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。

- (ア) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超えず、
介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。
- (イ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え、
介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超えない。
- (ウ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え、
介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。

2 事業実施計画額等について

2 事業実施計画額等について

	(1)旧政令第37条の13第1項(※1)で定める上限額(※2)	(2)事業実施計画額(※3)	うち要支援者にかかる額(※4)	(3)引上額(2)-(1)(0以上の数値を記入。)(※6)
地域支援事業	円	円	円	円
旧介護予防・日常生活支援総合事業	円	円	円	円
包括的支援事業(地域包括支援センターの運営等)及び任意事業	円	円		

(4)給付見込額(※1)	(5)給付見込額に1%を乗じて得た額(※5)	地域支援事業	円
円	円	旧介護予防・日常生活支援総合事業	円

	(1)政令第37条の13第1項(※1)で定める上限額(※2)	(2)事業実施計画額(※3)	うち要支援者にかかる額(※4)	(5)引上額(2)-(1)(0以上の数値を記入。)(※6)
地域支援事業	円	円	円	円
介護予防・日常生活支援総合事業	円	円	円	円
包括的支援事業及び任意事業	円	円		

(4)給付見込額(※1)	(5)給付見込額に1%を乗じて得た額(※5)	地域支援事業	円
円	円	介護予防・日常生活支援総合事業	円

- (※1) 給付見込額は、旧政令第37条の13第2項で規定されたとおり、旧介護予防・日常生活支援総合事業を行わないものとするは介護給付等に要することとなる費用の見込額に基づいて算定すること。
- (※2) (1) 旧政令第37条の13第1項で定める上限額の算定時において、1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。（以下(※4)においても同じ。）
- (※3) (2) 事業実施計画額は、対象経費支出予定額を記入すること。
- (※4) うち要支援者にかかる額は、(2) 事業実施計画額中、要支援者の旧介護予防・日常生活支援総合事業にかかる実施計画額を記入すること。
- (※5) (5) 給付見込額に1%を乗じて得た額は、給付見込額に、旧政令第37条の13第1項で定める上限比率（地域支援事業＝百分の3、旧介護予防・日常生活支援総合事業＝百分の2）に百分の1を加えた比率を乗じて得た額から、(1) 旧政令第37条の13第1項で定める上限額を差し引いた額を記入すること。
- (※6) (3) 引上額は、(5) 給付見込額に1%を乗じて得た額を下回る額を記入すること。

- ※1 給付見込額は、政令第37条の13第2項で規定されたとおり、介護予防・日常生活支援総合事業を行わないものとするは介護給付等に要することとなる費用の見込額に基づいて算定すること。
- ※2 (1) 政令第37条の13第1項で定める上限額の算定時において、1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。（以下(※4)においても同じ。）
- ※3 (2) 事業実施計画額は、対象経費支出予定額を記入すること。
- ※4 うち要支援者にかかる額は、(2) 事業実施計画額中、要支援者の介護予防・日常生活支援総合事業にかかる実施計画額を記入すること。
- ※5 (5) 給付見込額に1%を乗じて得た額は、給付見込額に、政令第37条の13第1項で定める上限比率（地域支援事業＝百分の3、介護予防・日常生活支援総合事業＝百分の2）に百分の1を加えた比率を乗じて得た額から、(1) 政令第37条の13第1項で定める上限額を差し引いた額を記入すること。
- ※6 (3) 引上額は、(5) 給付見込額に1%を乗じて得た額を下回る額を記入すること。

保険者名	
都道府県コード	市区町村コード

保険者名	
都道府県コード	市区町村コード

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第3

別紙様式第3

別紙様式第3

別紙様式第3(介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村)。

第 号
平成 年 月 日
厚生労働大臣 殿

第 号
平成 年 月 日
厚生労働大臣 殿

市町村長
広域連合代表
組合長

市町村長
広域連合代表
組合長

平成 年度地域支援事業交付金の変更交付申請について

平成 年度地域支援事業交付金の変更交付申請について。

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定を受けた標記交付金については、次により変更交付されるよう関係書類を添えて申請する。

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定を受けた標記交付金については、次により変更交付されるよう関係書類を添えて申請する。

1 今回追加交付（一部取消）申請額 金 円
内訳 交付金既交付決定額 金 円
変更後交付金所要額 金 円

1 今回追加交付（一部取消）申請額 金 円
内訳 交付金既交付決定額 金 円
変更後交付金所要額 金 円

	交付金既交付決定額(A)	変更後交付金所要額(B)	今回追加交付（一部取消）申請額(B)-(A)
地域支援事業交付金	円	円	円
内訳	介護予防・日常生活支援総合事業		
	旧介護予防・日常生活支援総合事業		
	旧介護予防事業		
	包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業		
包括的支援事業(社会保障充実分)			

	交付金既交付決定額(A)	変更後交付金所要額(B)	今回追加交付（一部取消）申請額(B)-(A)
地域支援事業交付金	円	円	円
内訳	介護予防・日常生活支援総合事業		
	包括的支援事業及び任意事業		

2 変更を必要とする理由

2 変更を必要とする理由。

3 変更を要する諸様式については、申請手続の様式に準ずる。

3 変更を要する諸様式については、申請手続の様式に準ずる。

保 険 者 名	
都道府県コード	市区町村コード C-D

保 険 者 名	
都道府県コード	市区町村コード C-D

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第3に統合

別紙様式第9

別紙様式第9(介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村)。

第 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣 殿

市町村長
広域連合代表
組合長

印

平成 年度地域支援事業交付金の変更交付申請について。

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定を受けた標記交付金については、次により変更交付されるよう関係書類を添えて申請する。

1 今回追加交付（一部取消）申請額 金 円
 内訳 交付金既交付決定額 金 円
 変更後交付金所要額 金 円

	交付金既交付決定額(A)	変更後交付金所要額(B)	今回追加交付（一部取消）申請額(B)-(A)
地域支援事業交付金	円	円	円
内訳	介護予防事業		
	包括的支援事業及び任意事業		

2 変更を必要とする理由。

3 変更に必要な諸様式については、申請手続の様式に準ずる。

保健番号	
都道府県コード	市区町村コード

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4

別紙様式第4

別紙様式第4

第 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣 殿

市 町 村 長
広域連合代表
組 合 長



平成 年度地域支援事業交付金の事業実績報告について

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定を受けた標記交付金に係る事業実績について、次の関係書類を添えて報告する。

(添付書類)

全事業共通

- 1 平成 年度地域支援事業交付金精算書(様式1)
- 2 平成 年度包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)実施報告書(様式2)
- 3 平成 年度任意事業実施報告書(様式3)
- 4 平成 年度包括的支援事業(社会保障充実)計画書(様式4)
- 5 平成 年度歳入歳出決算(見込)書抄本
(内訳として、支給実績内訳書(円単位、任意様式)等を添付すること。)

介護予防・日常生活支援総合事業実施市町村で該当がある場合のみ

- 6 平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施報告書(様式1の(1)別添)
- 7 平成 年度包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業の特例上限額適用に係る事業実施報告書(様式5)

旧介護予防・日常生活支援総合事業実施市町村で該当がある場合のみ

- 8 平成 年度旧介護予防・日常生活支援事業の上限額引き上げに係る事業実施報告書(様式6)

保 険 者 名	
都道府県コード	市区町村コード C・D

第 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣 殿

市 町 村 長
広域連合代表
組 合 長



平成 年度地域支援事業交付金の事業実績報告について

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定を受けた標記交付金に係る事業実績について、次の関係書類を添えて報告する。

(添付書類)

- 1 平成 年度地域支援事業交付金精算書(様式1)
- 2 平成 年度事業実施報告書(様式2)
- 3 平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業実施報告書(様式3)
- 4 平成 年度地域支援事業上限引き上げに係る事業実施報告書(様式4)
(政令第37条の13第3項第2号に該当する市町村のみ提出すること。)
- 5 平成 年度歳入歳出決算(見込)書抄本
(内訳として、支給実績内訳書(円単位、任意様式)等を添付すること。)

保 険 者 名	
都道府県コード	市区町村コード C・D

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4に統合

別紙様式第10

別紙様式第10(介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村)

第 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣 殿

市町村長
広域連合代表
組合長

印

平成 年度地域支援事業交付金の事業実績報告について

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定を受けた標記交付金に係る事業実績について、次の関係書類を添えて報告する。

(添付書類)

- 1 平成 年度地域支援事業交付金精算書(様式1)
- 2 平成 年度事業実施報告書(様式2)
- 3 平成 年度歳入歳出決算(見込)書抄本

(内訳として、支給実績内訳書(円単位、任意様式)等を添付すること。)

保 険 者 名					
都道府県	市 区 町 村	C・D			

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4様式1の(1)

新規様式

別紙様式第4様式1の(1)（分譲予約・日常生活支援関係事業を実施する年別行）

平成 年度地域支援事業交付金精算書

区 分	事業費	交付金その他 の収入額	差引額 (C)A-B	対象経費 算入金額	基準額	交付基本額	交付金所算額	交付金 交付決定額	交付金 収入実績	差引額不足額 （千円）		備 考
										超過額	不足額	
1 介護予防・日常生活支援総合事業												
ア 訪問型サービス（第1種訪問事業）												
イ 訪問介護型サービス												
ロ 訪問型サービス（認知症高齢者（1）型サービス）												
ハ 訪問型サービス（住居外場による支援）												
ニ 訪問型サービス（認知症高齢者（2）型サービス）												
ホ 訪問型サービス（移動支援）												
ヘ その他												
エ 通所型サービス（第1種通所事業）												
イ 通所の認知症サービス												
ロ 通所型サービス（認知症高齢者（1）型サービス）												
ハ 通所型サービス（住居外場による支援）												
ニ 通所型サービス（認知症高齢者（2）型サービス）												
ホ その他												
カ 生活支援型サービス（第1種生活支援事業）												
ア 実需者生活目的の1次対応												
イ 定期的な定常課題及び緊急時の対応												
ロ 訪問型サービス・通所型サービスの一時的課題等												
ハ その他												
ク 介護予防ケアマネジメント（第1種介護予防支援事業）												
カ 普及支援活動												
キ 高齢者の権利サービス推進活動												
ク1 介護予防の推進												
ア 介護予防の推進												
イ 介護予防普及啓発事業												
ロ 地域介護予防推進事業												
ハ 一時的介護予防推進事業												
ニ 地域介護予防推進活動												
2 高齢者生活支援事業（高齢者生活支援センターの設置及び利用事業）												
ア 日常生活												
イ 介護施設等施設開設促進事業												
ロ 高齢者の生活												
ア 高齢者生活利便性向上事業												
イ 福祉用具・住宅改修支援事業												
ロ 福祉用具販売促進及び福祉用具の普及啓発活動												
ハ 福祉用具の普及促進に関するセミナー開催事業												
ニ 福祉用具の普及促進に関するセミナー開催事業												
ホ 地域福祉推進活動												
3 次 福祉の支援事業（社会福祉事業等）												
イ 居宅介護・介護連携推進事業												
ロ 在宅介護支援センター事業												
ハ 認知症高齢者生活支援推進事業												
ニ 認知症高齢者生活支援推進事業												
ホ 地域ケア連携推進事業												

注 1 欄別には、交付金額に10%割付金その他収入を算入すること。
注 2 欄別には、交付金額に2%の事務費を算入すること。
注 3 欄別には、C欄、D欄を合算した上で、その差額を収入とする。
注 4 欄別には、1欄の欄2交付金額4の第4欄に定める交付金を算じて得た額（19年度額の繰越金及び繰上金）を収入とする。

総計金額の算出欄の表示

事業費	
交付金収入	
差引額	

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4様式1の(1)別添

新規様式

平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施報告書

介護予防・日常生活支援総合事業(交付要綱3の(1)のアの事業)

実施主体	〇〇市		
実施時期	平成 年 月 日から実施		
実績額	〇円 (計画額: 〇円)		
上限額			
(1) 原則の上限額			〇円
(2) 選択可能な上限額(給付全体)			〇円
(3) (1)の10%特例選択			〇円
(4) (2)の10%特例選択			〇円
上限超過の理由(下記の理由に該当する箇所に○を付け、具体的な内容を記載すること)			
	介護予防に効果的なプログラムを新たに導入等		
	介護予防や生活支援サービスの供給体制が近隣市町村と比較して著しく不足等		
	小規模市町村で通いの場の新たな整備等		
	その他		
内容 (具体的に 記載)			

※ 上限引き上げは、当該年度一時的に費用が伸びるが、住民主体の取組が促進され、費用の伸びが低減する見込みがあることが前提。
 ※ 上限超過の理由として、該当箇所に○を付けた場合には以下の点に留意の上、具体的に内容を記載すること。個別協議については、理由によっては認められない場合もあるので留意すること。
 ・介護予防に効果的なプログラムを新たに導入・・・具体的に新たに導入したプログラム内容を具体的に記載すること。なお、原則として導入した年度のみ個別協議が認められるものとするが、やむを得ない理由がある場合はこの限りではない。
 ・介護予防や生活支援サービスの供給体制が近隣市町村と比較して著しく不足・・・県内の市町村との比較か隣接市町村との比較かなど具体的な比較方法を数値も含めて記載する。
 ・小規模市町村で通いの場の新たな整備・・・整備に要した額を具体的に記載する。
 ・その他・・・内容が詳細に分かるように具体的に記載する。

改正後（新）

別紙様式4様式1の(2)

別紙様式4様式1の(2)（旧介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村）

平成 年度地域支援事業交付金精算書

区 分	総事業費 A	寄付金その他の 収入額 B	差引額 C(A-B)	対象経費 実支出額 D	基準額 E	交付基本額 F	交付金所要額 G	交付金 交付決定額 H	交付金 受入済額 I	差引額不足額 I-G		備 考
										超過額 J	不足額 K	
1 旧介護予防・日常生活支援総合事業												
(1) 要支援者向け事業												
ア 予防サービス事業及び生活支援サービス事業												
イ ケアマネジメント事業												
ウ 評価事業												
(2) 二次予防事業対象者向け事業												
ア 二次予防事業対象者の把握事業												
イ 予防サービス事業及び生活支援サービス事業												
ウ ケアマネジメント事業												
エ 評価事業												
(3) 一次予防事業対象者向け事業												
ア 介護予防普及啓発事業												
イ 地域介護予防活動支援事業												
ウ 一次予防事業評価事業												
エ 地域リハビリテーション活動支援事業												
(4) 普及支払手数料												
(5) 総合事業費精算金												
2 包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）及び任意事業												
(1) 包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）												
(2) 任意事業												
ア 介護給付等費用適正化事業												
イ 変換介護支援事業												
ウ その他の事業												
(ア) 成年後見制度利用支援事業												
(イ) 福祉用具・住宅改修支援事業												
(ウ) 認知症対応型共同生活介護事業所の運営等補助事業												
(エ) 認知症サポーター等養成事業												
(オ) 重度のALS患者の介護におけるコミュニケーション支援事業												
(カ) 地域自立生活支援事業												
3 小 計(1+2)												
4 包括的支援事業（社会保険充実分）												
(1) 在宅医療・介護連携推進事業												
(2) 生活支援体制整備事業												
(3) 認知症初期集中支援推進事業												
(4) 認知症地域支援・ケア向上事業												
(5) 地域ケア連携推進事業												
5 合 計(3+4)												

(注) 1 目標には、交付要綱4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 目標には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 3 目標には、目標金額及び目標額を超えて最も少ない額を記入すること。
 4 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付金を集めて得た額「**1円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てること。**」を記入すること。
 5 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付金を集めて得た額「**1円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てること。**」を記入すること。

総事業費	円
寄付金等収入	円
交付金受入済額	円
交付金所要額	円
交付金交付決定額	円
交付金受入済額	円
超過額	円
不足額	円

施設名称	
〒	
市町村	
C-D	

改正前（旧）

別紙様式第4様式1

別紙様式第4様式1（旧介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村）

平成 年度地域支援事業交付金精算書

区 分	総事業費 A	寄付金その他 の収入額 B	差引額 C(A-B)	対象経費 支出予定額 D	基準額 E	交付基本額 F	交付金所要額 G	交付金 交付決定額 H	交付金 受入済額 I	差引額不足額 I-G		備 考
										超過額 J	不足額 K	
1 介護予防・日常生活支援総合事業												
(1) 要支援者向け事業												
ア 予防サービス事業及び生活支援サービス事業												
イ ケアマネジメント事業												
ウ 評価事業												
(2) 二次予防事業対象者向け事業												
ア 二次予防事業対象者の把握事業												
イ 予防サービス事業及び生活支援サービス事業												
ウ ケアマネジメント事業												
エ 評価事業												
(3) 一次予防事業対象者向け事業												
ア 介護予防普及啓発事業												
イ 地域介護予防活動支援事業												
ウ 一次予防事業評価事業												
(4) 普及支払手数料												
2 包括的支援事業及び任意事業												
(1) 包括的支援事業（介護予防ケアマネジメント業務を除く。）												
(2) 任意事業												
ア 介護給付等費用適正化事業												
イ 変換介護支援事業												
ウ その他の事業												
(ア) 成年後見制度利用支援事業												
(イ) 福祉用具・住宅改修支援事業												
(ウ) 認知症対応型共同生活介護事業所の運営等補助事業												
(エ) 地域自立生活支援事業												
(オ) その他												
3 小 計(1+2)												
4 新規事業計（任意事業）												
(1) 認知症初期集中支援推進事業												
(2) 認知症地域支援推進員等設置事業												
(3) 認知症ケア向上推進事業												
(4) 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業												
5 合 計(3+4)												

(注) 1 目標には、交付要綱4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 基準額（目標）に前号（イ）の算出結果の1.8倍を1円未満の端数を切り捨てて算出する。
 3 目標には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 4 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
 5 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付金を集めて得た額「**1円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てること。**」を記入すること。

総事業費	円
寄付金等収入	円
交付金受入済額	円
交付金所要額	円
交付金交付決定額	円
交付金受入済額	円
超過額	円
不足額	円

施設名称	
〒	
市町村	
C-D	

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式4様式1の(3)

別紙様式第10様式1

別紙様式第10様式1(3) (交付金交付事業を編成する市町村)

平成 年度地域支援事業交付金精算書

区 分	総事業費 A	寄付金その他の 収入額 B	差引額 C(A-B)	対象経費 支出金額 D	基準額 E	交付金所要額 F	交付金 交付決定額 G	交付金 収入済額 H	差引額不足額 I-G		備考	備考
									超過額 J	不足額 K		
1 総合的支援事業												
(1) 二次予防事業												
ア 二次予防事業の対象者把握事業												
イ 通所型介護予防事業												
ウ 訪問型介護予防事業												
エ 二次予防事業評価事業												
(2) 一次予防事業												
ア 介護予防普及啓発事業												
イ 地域介護予防活動支援事業												
ウ 一次予防事業評価事業												
エ 地域ヘルパーバンク活動支援事業												
(3) 総合事業費調整金												
2 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業												
(1) 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)												
(2) 任意事業												
ア 介護給付等費用適正化事業												
イ 家族介護支援事業												
ウ その他事業												
ア) 成年後見制度利用支援事業												
イ) 福祉用具・住宅改修支援事業												
ウ) 認知症対応型共同生活介護事業所の運営補助事業												
エ) 認知症サポーター等育成事業												
オ) 重度障害者の人権に関する支援事業												
カ) 地域自立生活支援事業												
3 小 計(1+2)												
4 包括的支援事業(社会保障課の事業計)												
(1) 在宅医療・介護連携推進事業												
(2) 生活支援体制整備事業												
(3) 認知症初期集中支援推進事業												
(4) 認知症地域支援ツープア向上事業												
(5) 地域ケア会議推進事業												
5 合 計(3+4)												

注1 B欄には、交付金額4に「寄付金その他の収入額」を記入すること。
 注2 E欄には、交付金額4に定める基準額を記入すること。
 注3 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も多い額を記入すること。
 注4 G欄には、F欄の額に交付金額4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額「交付決定額」を記入すること。

給付見込額 円

申請者名	
都道府県計	
市区町村計	
C-D	

別紙様式第10様式1(3) (交付金交付事業を編成しない市町村)

平成 年度地域支援事業交付金精算書

区 分	総事業費 A	寄付金その他の 収入額 B	差引額 C(A-B)	対象経費 支出予定額 D	基準額 E	交付金所要額 F	交付金 交付決定額 G	交付金 収入済額 H	差引額不足額 I-G		備考	備考
									超過額 J	不足額 K		
1 介護予防事業												
(1) 二次予防事業												
ア 二次予防事業の対象者把握事業												
イ 通所型介護予防事業												
ウ 訪問型介護予防事業												
エ 二次予防事業評価事業												
(2) 一次予防事業												
ア 介護予防普及啓発事業												
イ 地域介護予防活動支援事業												
ウ 一次予防事業評価事業												
2 包括的支援事業及び任意事業												
(1) 包括的支援事業												
(2) 任意事業												
ア 介護給付等費用適正化事業												
イ 家族介護支援事業												
ウ その他事業												
ア) 成年後見制度利用支援事業												
イ) 福祉用具・住宅改修支援事業												
ウ) 認知症対応型共同生活介護事業所の運営補助事業												
エ) 地域自立生活支援事業												
オ) その他												
3 小 計(1+2)												
4 新規事業計(任意事業)												
(1) 認知症初期集中支援推進事業												
(2) 認知症地域支援推進員等設置事業												
(3) 認知症ケア向上推進事業												
(4) 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業												
包括的支援事業+任意事業+新規事業 交付金所要額(2+4)												
5 合 計(3+4)												

注1 B欄には、交付金額4に「寄付金その他の収入額」を記入すること。
 注2 基準額(E欄)の算定に当たり、政令第37条の13第1項及び同条第2項に規定する給付見込額を記入すること。
 注3 E欄には、交付金額4に定める基準額を記入すること。
 注4 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も多い額を記入すること。
 注5 G欄には、F欄の額に交付金額4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額「交付決定額」を記入すること。

給付見込額 円

申請者名	
都道府県計	
市区町村計	
C-D	

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4様式2

別紙様式第4様式2の(1)

別紙様式第4様式2

平成 年度包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）実施報告書

1 地域包括支援センターの設置状況

(1) 設置状況

	合計		
	直営	委託	
地域包括支援センターの設置数			

(2) 委託先の状況

	合計						
	社会福祉法人 (社協以外)	社会福祉協議会	医療法人	社団・財団法人	NPO法人	その他	
委託先件数							

(3) 職員の状況

	合計			
	保健師	社会福祉士	主任ケアマネジャー	その他
配置数				

※「保健師」には経験ある看護師も含む。

保険者名			
都道府県 コード	市区町村コード	C-D	

様式2の(1)（介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村）
平成 年度事業実施報告書

I. 地域包括支援センターの設置状況

1 設置状況

	合計		
	直営	委託	
地域包括支援センターの設置数			

2 委託先の状況

	合計						
	社会福祉法人 (社協以外)	社会福祉協議会	医療法人	社団・財団法人	NPO法人	その他	
委託先件数							

II. 介護予防・日常生活支援総合事業におけるケアマネジメント事業

1 交付要綱3の(1)のアに係るケアプランの作成数

	合計	
	要支援者向け	
二次予防事業対象者向け		
合計作成数		

2 地域支援事業で実施したケアマネジメントに基づくケアプランの評価

	合計	
	評価件数	
プラン継続		
プラン変更		
介護給付に変更		
予防給付に変更		
介護予防・日常生活支援総合事業の中で変更		
一次予防事業に変更		
終了		

III. 総合相談支援、権利擁護業務

相談件数等

	合計	
	介護保険その他の保健福祉サービスに関すること	
権利擁護（成年後見制度等）に関すること		
高齢者虐待に関すること		

IV. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

1 包括的・継続的ケアマネジメントの体制構築

	関係機関との連携づくり	医療機関との連携体制づくり	地域のインフォーマルサービスとの連携づくり
	具体的内容を簡潔に記入してください。		

2 介護支援専門員に対する個別支援

	実施の有無	
	有	無
相談窓口		
支援困難事例を抱える介護支援専門員への対応		
個別事例に対するサービス担当者会議開催支援		
質の向上のための研修		
ケアプラン作成指導等を通じた介護支援専門員のケアマネジメントの指導		
介護支援専門員同士のネットワーク構築		
介護支援専門員に対する情報支援		
ケアプランの踏査に基づいてサービスが提供されるよう、居宅サービス事業所等への研修等の働きかけ		
その他（具体的内容を簡潔に記入してください。）		

※「実施の有無」欄は、該当箇所「○」を付けて下さい。

保険者名			
都道府県 コード	市区町村コード	C-D	

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4様式2に統合

別紙様式第10様式2の(1)

様式2の(1) (介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村)

平成 年度事業実施報告書

I. 地域包括支援センターの設置状況

1 設置状況

	合計	直営	委託
地域包括支援センターの設置数			

2 委託先の状況

	合計	社会福祉法人 (扶老除外)	社会福祉協議会	医療法人	社団・財団法人	NPO法人	その他
委託先件数							

II. 介護予防ケアマネジメント業務

1 交付要綱3の(2)のイに係る介護予防ケアプランの作成数

	合計
作成数	

2 介護予防ケアプランの評価

	合計
評価件数	
プラン継続	
プラン変更	
介護給付に変更	
予防給付に変更	
二次予防事業の中で変更	
一次予防事業に変更	
終了	

III. 総合相談支援、権利擁護業務

相談件数等

	合計
介護保険その他の保健福祉サービスに関すること	
権利擁護（成年後見制度等）に関すること	
高齢者虐待に関すること	

IV. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

1 包括的・継続的ケアマネジメントの体制構築

	関係機関との連携づくり	医療機関との連携体制づくり	地域のインフォーマルサービスとの連携づくり
具体的内容を簡潔に記入してください。			

2 介護支援専門員に対する個別支援

	実施の有無
相談窓口	有 無
支援困難事例を抱える介護支援専門員への対応	有 無
個別事例に対するサービス担当者会議開催支援	有 無
質の向上のための研修	有 無
ケアプラン作成指導等を通じた介護支援専門員のケアマネジメントの指導	有 無
介護支援専門員同士のネットワーク構築	有 無
介護支援専門員に対する情報支援	有 無
ケアプランの趣旨に基づいてサービスが提供されるよう、居宅サービス事業所等への研修等の働きかけ	有 無
その他（具体的内容を簡潔に記入してください。）	

※「実施の有無」欄は、該当箇所「○」を付けて下さい。

保険者名	
郵便番号	
市区町村コード	0-0

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4様式3

別紙様式第4様式2の(2)

別紙様式第4様式3

様式2の(2)（介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村）

平成 年度任意事業実施報告書

平成 年度事業実施報告書

任意事業（交付要綱3の(1)、(2)、(3)のウの事業）

任意事業（交付要綱3の(1)のウの事業）

介護保険法第115条の45第3項に基づく事業	ア 介護給付等費用適正化事業	
	イ 家族介護支援事業	
	ウ その他の事業	
実施主体	〇〇市	
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
事業費	円（計画額： 円）	
事業名 (事業費)	実施内容	効果
(円)		
(円)		
(円)		
(円)		
(円)		

介護保険法第115条の45第3項に基づく事業	ア 介護給付等費用適正化事業	
	イ 家族介護支援事業	
	ウ その他事業	
実施主体		
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
事業費	円（実施計画額 円）	
具体的な事業名、事業内容及び事業費		

(注)

(注)

- 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～ウの該当する事業の記号に「〇」を付けること。また、ア～ウの事業を複数実施している場合は別業で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 「事業名（事業費）」について、事業名は様式3別添より番号を記入し、事業費には対象経費実支出額を記入し、計画額には実施計画時の対象経費支出予定額を記入すること。
- 「実施内容」は、具体的かつ簡潔に記入すること。
- 「効果」には、事業計画書の目標に対して達成した効果について、定量的・定性的な観点から記入すること。

- 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～ウの該当する事業の記号に「〇」を付けること。また、ア～ウの事業を複数実施している場合は、別様で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 「事業費」には、対象経費実支出額を記入し、「実施計画額」には、実施計画時の額（対象経費支出予定額）を記入すること。
- 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」には、ア～ウの各事業における具体的な取組毎に記入すること。
- 「具体的な事業名、事業内容及び事業費」に事業名を記載する際、事業を委託している場合は、（ ）書きで、委託先を記入すること。
- 「具体的な事業名、事業内容及び事業費」に事業内容を記載する際、具体的かつ簡潔に記入すること。
- 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」に事業費を記載する際、実績額の後ろに（ ）書きで、実施計画時の額（対象経費支出予定額）を記入すること。

保険者名		
都道府県コード	市区町村コード	C-D

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4様式3に統合

別紙様式第10様式2の(2)

様式2の(2)（介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村）

平成 年度 事業 実施 報告 書

任意事業（交付要綱3の(2)のウの事業）

介護保険法第115条の45第3項に基づく事業	ア 介護給付等費用適正化事業 イ 家族介護支援事業 ウ その他事業
実施主体	
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
事業費	円 （実施計画額 円）
具体的な事業名、事業内容及び事業費	

(注)

- 1 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～ウの該当する事業の記号に「○」を付けること。また、ア～ウの事業を複数実施している場合は、別様で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 2 「事業費」には、対象経費実支出額を記入し、「実施計画額」には、実施計画時の額（対象経費支出予定額）を記入すること。
- 3 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」には、ア～ウの各事業における具体的な取組毎に記入すること。
- 4 「具体的な事業名、事業内容及び事業費」に事業名を記載する際、事業を委託している場合は、（ ）書きで、委託先を記入すること。
- 5 「具体的な事業名、事業内容及び事業費」に事業内容を記載する際、具体的かつ簡潔に記入すること。
- 6 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」に事業費を記載する際、実績額の後ろに（ ）書きで、実施計画時の額（対象経費支出予定額）を記入すること。

保険者名	
都道府県コード	市区町村コード C・D

改正後（新）	改正前（旧）						
<p>別紙様式第4様式3別添</p> <p>別紙様式第4様式3別添</p> <p style="text-align: center;">任意事業</p> <table border="1" data-bbox="152 379 1095 1147"> <tr> <td data-bbox="152 379 472 624">介護給付等費用適正化事業</td> <td data-bbox="472 379 1095 624"> ① 認定調査状況チェック ② ケアプランの点検 ③ 住宅改修等の点検 ④ 医療情報との突合・縦覧点検 ⑤ 介護給付費通知 ⑥ 給付実績を活用した分析・検証事業 ⑦ 介護サービス事業者等への適正化支援事業 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="152 624 472 836">家族介護支援事業</td> <td data-bbox="472 624 1095 836"> ⑧ 介護教室の開催 ⑨ 認知症高齢者見守り事業 ⑩ 健康相談・疾病予防等事業 ⑪ 介護者交流会の開催 ⑫ 介護自立支援事業 ⑬ 介護用品の支給 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="152 836 472 1147">その他の事業</td> <td data-bbox="472 836 1095 1147"> ⑭ 成年後見制度利用支援事業 ⑮ 福祉用具・住宅改修支援事業 ⑯ 認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業 ⑰ 認知症サポーター等養成事業 ⑱ 重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業 ⑲ 高齢者の安心な住まいの確保に資する事業 ⑳ 介護サービスの質の向上に資する事業 ㉑ 地域資源を活用したネットワーク形成に資する事業 ㉒ 家庭内の事故等への対応の体制整備に資する事業 </td> </tr> </table>	介護給付等費用適正化事業	① 認定調査状況チェック ② ケアプランの点検 ③ 住宅改修等の点検 ④ 医療情報との突合・縦覧点検 ⑤ 介護給付費通知 ⑥ 給付実績を活用した分析・検証事業 ⑦ 介護サービス事業者等への適正化支援事業	家族介護支援事業	⑧ 介護教室の開催 ⑨ 認知症高齢者見守り事業 ⑩ 健康相談・疾病予防等事業 ⑪ 介護者交流会の開催 ⑫ 介護自立支援事業 ⑬ 介護用品の支給	その他の事業	⑭ 成年後見制度利用支援事業 ⑮ 福祉用具・住宅改修支援事業 ⑯ 認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業 ⑰ 認知症サポーター等養成事業 ⑱ 重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業 ⑲ 高齢者の安心な住まいの確保に資する事業 ⑳ 介護サービスの質の向上に資する事業 ㉑ 地域資源を活用したネットワーク形成に資する事業 ㉒ 家庭内の事故等への対応の体制整備に資する事業	<p>新規様式</p>
介護給付等費用適正化事業	① 認定調査状況チェック ② ケアプランの点検 ③ 住宅改修等の点検 ④ 医療情報との突合・縦覧点検 ⑤ 介護給付費通知 ⑥ 給付実績を活用した分析・検証事業 ⑦ 介護サービス事業者等への適正化支援事業						
家族介護支援事業	⑧ 介護教室の開催 ⑨ 認知症高齢者見守り事業 ⑩ 健康相談・疾病予防等事業 ⑪ 介護者交流会の開催 ⑫ 介護自立支援事業 ⑬ 介護用品の支給						
その他の事業	⑭ 成年後見制度利用支援事業 ⑮ 福祉用具・住宅改修支援事業 ⑯ 認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業 ⑰ 認知症サポーター等養成事業 ⑱ 重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業 ⑲ 高齢者の安心な住まいの確保に資する事業 ⑳ 介護サービスの質の向上に資する事業 ㉑ 地域資源を活用したネットワーク形成に資する事業 ㉒ 家庭内の事故等への対応の体制整備に資する事業						

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4様式4

新規様式

別紙様式第4様式4

平成 年度包括的支援事業（社会保障充実分）実施報告書

包括的支援事業（社会保障充実分）（交付要綱3の（1）、（2）、（3）のイの事業）

実施主体	〇〇市									
実施時期	①平成 年 月 日から実施					②平成 年 月 日から実施				
	③平成 年 月 日から実施					④平成 年 月 日から実施				
社会保障充実分 総事業費	円				標準額 (4事業の合計額)		円			
①在宅医療・介護連 携推進事業	事業費	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	
		(イ)等の会議		(オ)の相談窓口	(オ)の相談員等	(カ)多職種研修		(カ)その他の研修		
	0円	0回	0箇所	0人	0回	0回				
②生活支援体制整備 事業	事業費	第1層			第2層					
		コーディネーター	協議体		コーディネーター	協議体				
	0円	0人	0箇所	0人	0箇所					
③認知症総合支援事 業	事業費	認知症初期集中支援チーム設置				認知症地域支援推進員設置				
	0円	0箇所				0箇所				
④地域ケア会議推進 事業	事業費	地域ケア個別会議				地域ケア推進会議				
	0円	0回				0回				

(注)

- 「事業費」には、対象経費支出予定額を記入すること。「標準額（4事業の合計額）」には、交付要綱4に定める基準額を記載すること。
- 在宅医療・介護連携推進事業の（ア）から（ク）については、実施要綱の事業内容（ア）から（ク）とする。右欄には実施の場合は〇、未実施の場合は×を記入すること。

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4様式5

新規様式

別紙様式第4様式5

平成 年度包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）及び任意事業の特例上限額適用に係る事業実施報告書

包括的支援事業（地域包括支援センターの運営等）及び任意事業（交付要綱3の（1）、（2）、（3）のイ・ウの事業）

実施主体	〇〇市	
①介護予防・日常生活支援総合事業の実施		
実施時期	平成 年 月 日から実施	
②主要介護給付等費用適正化事業		
事業名 (事業費)	主要5事業に係る取り組みの効果検証等	
認定調査状況 チェック (円)	①目標に照らした現状の評価	
	②分析の結果明らかになる課題の整理	
	③目標の達成に向けた改善策の検討	
ケアプランの点検 (円)	①目標に照らした現状の評価	
	②分析の結果明らかになる課題の整理	
	③目標の達成に向けた改善策の検討	
住宅改修等の点検 (円)	①目標に照らした現状の評価	
	②分析の結果明らかになる課題の整理	
	③目標の達成に向けた改善策の検討	
医療情報との突合・縦覧点検 (円)	①目標に照らした現状の評価	
	②分析の結果明らかになる課題の整理	
	③目標の達成に向けた改善策の検討	
介護給付費通知 (円)	①目標に照らした現状の評価	
	②分析の結果明らかになる課題の整理	
	③目標の達成に向けた改善策の検討	
③小規模自治体に該当		

(注)

- 1 「事業費（実施計画額）」には、対象経費実支出額と実施計画時の対象経費支出予定額を記入すること。
- 2 「主要5事業に係る取り組みの効果検証等」には、事前の目標設定を踏まえ、①から③の項目ごとに記入すること。
- 3 ③は平成26年度の包括的支援事業・任意事業の上限額が12,500円未満の市町村の場合、右欄に○を記入すること。
小規模自治体に該当する場合は、②を記入しなくても可。

改正後（新）

別紙様式第4様式6

別紙様式第4様式6（旧介護予防・生活支援総合事業を実施する市町村）

平成 年度旧介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施報告書

1 旧介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る理由（該当項目にチェック）

- (ア) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超えず。
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。
- (イ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え。
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超えない。
- (ウ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え。
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。

2 実績額等について

	(1)旧政令第37条の13第1項で定める上限額 (※2)	(2)事業実績額 (※3)	うち要支援者にかかる額(※4)		(3)差引額(2)-(1) (0以上の数値を記入。) (※6)
	円	円	円	円	円
地域支援事業					
旧介護予防・日常生活支援総合事業					
包括的支援事業(地域包括支援センターの運営等)及び任意事業					

(4)給付見込額 (※1)	円	(5)給付見込額に1%を乗じて得た額(※5)	地域支援事業	
			円	円
			旧介護予防・日常生活支援総合事業	円

- (※1) 給付見込額は、旧政令第37条の13第2項で規定されるとおり、旧介護予防・日常生活支援総合事業を行わないものとするは介護給付等に要することとなる費用の見込額に基づいて算定すること。
- (※2) (1) 旧政令第37条の13第1項で定める上限額の算定時において、1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。（以下(※4)においても同じ。）
- (※3) (2) 事業実績額は、対象経費実支出額を記入すること。
- (※4) うち要支援者にかかる額は、(2) 事業実績額中、要支援者の旧介護予防・日常生活支援総合事業にかかる実績額を記入すること。
- (※5) (5) 給付見込額に1%を乗じて得た額は、給付見込額に、旧政令第37条の13第1項で定める上限比率(地域支援事業=百分の3、旧介護予防・日常生活支援総合事業=百分の2)に百分の1を加えた比率を乗じて得た額から、(1) 旧政令第37条の13第1項で定める上限額を差し引いた額を記入すること。
- (※6) (3) 差引額は、(5) 給付見込額に1%を乗じて得た額を下回る額を記入すること。

保険者名	
都道府県コード	市区町村コード C-D

改正前（旧）

別紙様式4様式4

様式4（政令第37条の13第3項第2号の規定に該当する市町村）

平成 年度地域支援事業上限引き上げに係る事業実施報告書

1 地域支援事業上限引き上げにかかる理由（申請時の該当項目をチェック）

- (ア) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超えず。
介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。
- (イ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え。
介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超えない。
- (ウ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え。
介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。

2 実績額等について

	(1)旧政令第37条の13第1項で定める上限額 (※2)	(2)事業実績額 (※3)	うち要支援者にかかる額(※4)		(3)差引額(2)-(1) (0以上の数値を記入。) (※6)
	円	円	円	円	円
地域支援事業					
介護予防・日常生活支援総合事業					
包括的支援事業 及び任意事業					

(4)給付見込額 (※1)	円	(5)給付見込額に1%を乗じて得た額(※5)	地域支援事業	
			円	円
			介護予防・日常生活支援総合事業	円

- ※1 給付見込額は、政令第37条の13第2項で規定されるとおり、介護予防・日常生活支援総合事業を行わないものとするは介護給付等に要することとなる費用の見込額に基づいて算定すること。
- ※2 (1) 政令第37条の13第1項で定める上限額の算定時において、1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。（以下(※4)においても同じ。）
- ※3 (2) 事業実績額は、対象経費実支出額を記入すること。
- ※4 うち要支援者にかかる額は、(2) 事業実績額中、要支援者の介護予防・日常生活支援総合事業にかかる実績額を記入すること。
- ※5 (5) 給付見込額に1%を乗じて得た額は、給付見込額に、政令第37条の13第1項で定める上限比率(地域支援事業=百分の3、介護予防・日常生活支援総合事業=百分の2)に百分の1を加えた比率を乗じて得た額から、(1) 政令第37条の13第1項で定める上限額を差し引いた額を記入すること。
- ※6 (3) 差引額は、(5) 給付見込額に1%を乗じて得た額を下回る額を記入すること。

保険者名	
都道府県コード	市区町村コード C-D

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第5

別紙様式第5

別紙様式第5

番号

平成 年度地域支援事業交付金交付決定通知書

(市町村名)

平成 年 月 日 第 号で申請のあった介護保険法(平成9年法律第123号)第122条の2に基づき平成 年度地域支援事業交付金については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)(以下適正化法という。)

平成 年 月 日

都道府県知事 氏名



- 1 交付金の交付の対象となる事業(以下「事業」という。)
2 事業に要する経費及び交付金の額は、次のとおりである。ただし、事業の内容が変更された場合において、事業に要する経費又は交付金の額が変更されるときは、別に通知するところによるものとする。
3 事業に要する経費の配分及びこれに対応する交付金の額の区分は、次のとおりである。
4 交付金の額の確定は、交付要綱の4に定める交付額の算定方法により行うものである。
5 この交付金は交付要綱の6に掲げる事項を条件として交付するものである。
6 事業に係る事業実績報告は、交付要綱の11に定めるところにより行わなければならない。
7 この交付の決定の内容又は条件に不服がある場合における適正化法第9条第1項の規定による申請の取下げをすることができる期限は、平成 年 月 日とする。

番号

平成 年度地域支援事業交付金交付決定通知書

(市町村名)

平成 年 月 日 第 号で申請のあった介護保険法(平成9年法律第123号)第122条の2に基づき平成 年度地域支援事業交付金については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)(以下適正化法という。)

平成 年 月 日

都道府県知事 氏名



- 1 交付金の交付の対象となる事業(以下「事業」という。)
2 事業に要する経費及び交付金の額は、次のとおりである。ただし、事業の内容が変更された場合において、事業に要する経費又は交付金の額が変更されるときは、別に通知するところによるものとする。
3 事業に要する経費の配分及びこれに対応する交付金の額の区分は、次のとおりである。
4 交付金の額の確定は、交付要綱の4に定める交付額の算定方法により行うものである。
5 この交付金は交付要綱の6に掲げる事項を条件として交付するものである。
6 事業に係る事業実績報告は、交付要綱の11に定めるところにより行わなければならない。
7 この交付の決定の内容又は条件に不服がある場合における適正化法第9条第1項の規定による申請の取下げをすることができる期限は、平成 年 月 日とする。

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第5に統合

別紙様式第1.1

別紙様式第11(介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村)。

番 号

平成 年度地域支援事業交付金交付決定通知書

(市町村名)

平成 年 月 日 第 号で申請のあった介護保険法(平成9年法律第123号)第122条の2に基づく平成 年度地域支援事業交付金については、補助金等に係る予算の執行の適正化に

関する法律(昭和30年法律第179号)(以下適正化法という。)の第6条第1項の規定により、
第6条第3項の規定により、修正のうえ、

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号をもって、次のとおり交付することに決定されたので、適正化法第9条の規定により敢行する。

平成 年 月 日

都道府県知事 氏 名



1 交付金の交付の対象となる事業(以下「事業」という。)は、平成〇〇年〇月〇〇日厚生労働省発老第〇〇〇〇〇〇〇号厚生労働事務次官(殿)の別紙「地域支援事業交付金交付要綱」(以下「交付要綱」という。)の3に定める事業であり、その内容は、

{ 平成 年 月 日 第 号 申請書記載のとおり、
2のとおり、 } である。

2 事業に要する経費及び交付金の額は、次のとおりである。ただし、事業の内容が変更された場合において、事業に要する経費又は交付金の額が変更されるときは、別は敢行するところによるものとする。

事業に要する経費 金 円
交付金の額 金 円

3 事業に要する経費の配分及びこれに対応する交付金の額の区分は、次のとおりである。

区 分 事業に要する経費 交付金の額
介護予防事業 金 円 金 円
包括的支援事業及び任意事業 金 円 金 円

4 交付金の額の確定は、交付要綱の4に定める交付額の算定方法により行われるものである。

5 この交付金は交付要綱の6に掲げる事項を条件として交付するものである。

6 事業に係る事業実績報告は、交付要綱の11に定めるところにより行わなければならない。

7 この交付の決定の内容又は条件に不届がある場合における適正化法第9条第1項の規定による申請の取下げをすることができる期間は、平成 年 月 日とする。

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第6

別紙様式第6

別紙様式第6

番 号

平成 年度地域支援事業交付金追加交付決定(交付決定一部取消)通知書

(市町村名)

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定された平成 年度地域支援事業交付金については、平成 年 月 日 第 号申請に基づき、平成 年 月 日厚生労働省発老第 号をもって決定の内容の一部を次のとおり変更することに決定されたので通知する。

平成 年 月 日

都道府県知事 氏 名



1 交付金の交付の対象となる事業(以下「事業」という。)は、平成〇〇年〇月〇〇日厚生労働省発老第〇〇〇〇〇〇〇〇号厚生労働事務次官通知の別紙「地域支援事業交付金交付要綱」の3に定める事業であり、その内容は

平成 年 月 日 第 号申請書記載のとおり
2のとおり

2 事業に要する経費及び交付金の額は、次のとおりである。
事業に要する経費 金 円(内今回増加(減少)額 金 円)
交付金の額 金 円(内今回追加交付(一部取消)額 金 円)

3 事業に要する経費の配分及びこれに対応する交付金の額の区分は、次のとおりである。

区 分	事業に要する経費	交付金の額
介護予防・日常生活支援総合事業	金 円	金 円
内今回増加(減少)額 金 円		内今回追加交付(一部取消)額 金 円
旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業	金 円	金 円
内今回増加(減少)額 金 円		内今回追加交付(一部取消)額 金 円
包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業	金 円	金 円
内今回増加(減少)額 金 円		内今回追加交付(一部取消)額 金 円
包括的支援事業(社会保障充実分)	金 円	金 円
内今回増加(減少)額 金 円		内今回追加交付(一部取消)額 金 円

4 この交付の決定の内容又は条件に不服がある場合における補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第9条第1項の規定による申請の取下げをすることができる期限は、平成 年 月 日とする。

別紙様式第6(介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村)。

番 号

平成 年度地域支援事業交付金追加交付決定(交付決定一部取消)通知書

(市町村名)

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定された平成 年度地域支援事業交付金については、平成 年 月 日 第 号申請に基づき、平成 年 月 日厚生労働省発老第 号をもって決定の内容の一部を次のとおり変更することに決定されたので通知する。

平成 年 月 日

都道府県知事 氏 名



1 交付金の交付の対象となる事業(以下「事業」という。)は、平成〇〇年〇月〇〇日厚生労働省発老第〇〇〇〇〇〇〇〇号厚生労働事務次官通知の別紙「地域支援事業交付金交付要綱」の3に定める事業であり、その内容は

平成 年 月 日 第 号申請書記載のとおり
2のとおり

2 事業に要する経費及び交付金の額は、次のとおりである。
事業に要する経費 金 円
内今回増加(減少)額 金 円
交付金の額 金 円
内今回追加交付(一部取消)額 金 円

3 事業に要する経費の配分及びこれに対応する交付金の額の区分は、次のとおりである。

区 分	事業に要する経費	交付金の額
介護予防・日常生活支援総合事業	金 円	金 円
内今回増加(減少)額 金 円		内今回追加交付(一部取消)額 金 円
包括的支援事業及び任意事業	金 円	金 円
内今回増加(減少)額 金 円		内今回追加交付(一部取消)額 金 円

4 この交付の決定の内容又は条件に不服がある場合における補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第9条第1項の規定による申請の取下げをすることができる期限は、平成 年 月 日とする。

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第6に統合

別紙様式第12

別紙様式第12(介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村)。

番 号

平成 年度地域支援事業交付金追加交付決定(交付決定一部取消)通知書

(市町村名)

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定された平成 年度地域支援事業交付金については、平成 年 月 日 第 号申請に基づき、平成 年 月 日厚生労働省発老第 号をもって決定の内容の一部を次のとおり変更することに決定されたので通知する。

平成 年 月 日

都道府県知事 氏 名 印

1 交付金の交付の対象となる事業(以下「事業」という。)は、平成〇〇年〇月〇〇日厚生労働省発老第〇〇〇〇〇〇〇〇号厚生労働事務次官通知の別紙「地域支援事業交付金交付要綱」の3に定める事業であり、その内容は、

{ 平成 年 月 日第 号申請書記載のとおり、
2のとおり、 } である。

2 事業に要する経費及び交付金の額は、次のとおりである。

事業に要する経費	金	円
内今回増加(減少)額	金	円
交付金の額	金	円
内今回追加交付(一部取消)額	金	円

3 事業に要する経費の配分及びこれに対応する交付金の額の区分は、次のとおりである。

区 分	事業に要する経費	交付金の額
介護予防事業	金 円	金 円
内今回増加(減少)額	金 円	金 円
包括的支援事業及び任意事業	金 円	金 円
内今回増加(減少)額	金 円	金 円

4 この交付の決定の内容又は条件に不服がある場合における補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第9条第1項の規定による申請の取下げをすることができる期限は、平成 年 月 日とする。

改正後（新）

別紙様式第7

別紙様式第7

番 号

平成 年度地域支援事業交付金交付額確定通知書

(市町村名)

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定された平成 年度地域支援事業交付金については、平成 年 月 日 第 号事業実績報告に基づき、平成 年 月 日厚生労働省発老第 号をもって交付額が別表のとおり確定されたので通知する。

なお、確定の結果不足となる金額については、別表のとおり追加交付することとし、また、超過交付となった金額については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第18条第2項の規定により、平成 年 月 日までに返還することを命ぜられたので併せて通知する。

平成 年 月 日

都道府県知事 氏 名 印

(別表)

平成 年度地域支援事業交付金交付額確定内訳書

市 町 村 名

	確定額	追加交付額	返還を要する額
地域支援事業交付金	円	円	円
内 訳	介護予防・日常生活支援総合事業	円	円
	旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業	円	円
	包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業	円	円
	包括的支援事業(社会保障充実分)	円	円

改正前（旧）

別紙様式第7

別紙様式第7(介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村)...

番 号

平成 年度地域支援事業交付金交付額確定通知書

(市町村名)

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定された平成 年度地域支援事業交付金については、平成 年 月 日 第 号事業実績報告に基づき、平成 年 月 日厚生労働省発老第 号をもって交付額が別表のとおり確定されたので通知する。

なお、確定の結果不足となる金額については、別表のとおり追加交付することとし、また、超過交付となった金額については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第18条第2項の規定により平成 年 月 日までに返還することを命ぜられたので併せて通知する。

平成 年 月 日

都道府県知事 氏 名 印

(別表)

平成 年度地域支援事業交付金交付額確定内訳書

市 町 村 名

	確定額	追加交付額	返還を要する額
地域支援事業交付金	円	円	円
内 訳	介護予防・日常生活支援総合事業		
	包括的支援事業及び任意事業		

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第7に統合

別紙様式第13

別紙様式第13(介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村)

番 号

平成 年度地域支援事業交付金交付額確定通知書

(市町村名)

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定された平成 年度地域支援事業交付金については、平成 年 月 日 第 号事業実績報告に基づき、平成 年 月 日厚生労働省発老第 号をもって交付額が別表のとおり確定されたので通知する。

なお、確定の結果不足となる金額については、別表のとおり追加交付することとし、また、超過交付となった金額については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第18条第2項の規定により平成 年 月 日までに返還することを命ぜられたので併せて通知する。

平成 年 月 日

都道府県知事 氏 名 印

(別表)

平成 年度地域支援事業交付金交付額確定内訳書

市 町 村 名

		確定額	追加交付額	返還を要する額
地域支援事業交付金		円	円	円
内 訳	介護予防事業			
	包括的支援事業 及び任意事業			

改正後（新）

別紙様式第 8
(略)

別紙様式第 8 様式 1

別紙様式第 8 様式 1
平成 度地域支援事業交付金所管関係諸市町村別内訳(総指額)

(項) 高齢者日常生活支援等推進費
(目) 地域支援事業交付金

市町村名	区 分	助事業費	交付金その他の収入額	差引額	対象経費支出予定額	基準額	交付基本額	交付金所管額	社会事業費交付金所管額	備考
1	生活支援-介護予防サービス	生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
2	生活支援-介護予防サービス	生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
3	生活支援-介護予防サービス	生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
4	生活支援-介護予防サービス	生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
5	生活支援-介護予防サービス	生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
		生活支援-介護予防サービス								
合計										

(注) 1 区分欄における「実施事業名」欄には、介護予防事業又は介護予防・日常生活支援総合事業のうち、実施している事業名を記入すること。
2 B欄には、交付金額の41に5割付き金その他の収入額を記入すること。
3 E欄には、交付金額に定まる基準額を記入すること。
4 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
5 G欄には、F欄の額に交付金額4の第4欄に定める交付率を乗じて算出した「1円未満の端数を切り上げた額」を記入すること。

改正前（旧）

別紙様式第 1 4
(略)

別紙様式第 1 4 様式 1

別紙様式第 1 4 様式 1
平成 度地域支援事業交付金所管関係諸市町村別内訳(総指額)

(項) 高齢者日常生活支援等推進費
(目) 地域支援事業交付金

市町村名	区 分	助事業費	交付金その他の収入額	差引額	対象経費支出予定額	基準額	交付基本額	交付金所管額	備考
1	生活支援-介護予防サービス	生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
2	生活支援-介護予防サービス	生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
3	生活支援-介護予防サービス	生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
4	生活支援-介護予防サービス	生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
5	生活支援-介護予防サービス	生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
		生活支援-介護予防サービス							
合計									

(注) 1 区分欄における「実施事業名」欄には、介護予防事業又は介護予防・日常生活支援総合事業のうち、実施している事業名を記入すること。
2 B欄には、交付金額の41に5割付き金その他の収入額を記入すること。
3 E欄には、交付金額に定まる基準額を記入すること。
4 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
5 G欄には、F欄の額に交付金額4の第4欄に定める交付率を乗じて算出した「1円未満の端数を切り上げた額」を記入すること。

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第8様式2

別紙様式第14様式2

別紙様式第8様式2

平成 年度地域支援事業交付金精算書市町村別内訳(総括表)

(項)高齢者日常生活支援等推進費
(目)地域支援事業交付金

項目	市町村名	区分	総事業費		寄付金その他の収入額		差引額 C(A-B)	対象経費 実支出額	基準額	交付基本額	交付金所要額	総合事業調整 交付金所要額	備考				
			A	B	C	D								E	F	G	H
1		介護予防・日常生活支援総合事業 認知予防・日常生活支援総合事業又は認知介護 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営) 及び任意事業 在宅医療・介護連携推進事業 生活支援体制整備事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援・ケア向上事業 認知症ケア連携推進事業 計															
2		介護予防・日常生活支援総合事業 認知予防・日常生活支援総合事業又は認知介護 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営) 及び任意事業 在宅医療・介護連携推進事業 生活支援体制整備事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援・ケア向上事業 認知症ケア連携推進事業 計															
3		介護予防・日常生活支援総合事業 認知予防・日常生活支援総合事業又は認知介護 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営) 及び任意事業 在宅医療・介護連携推進事業 生活支援体制整備事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援・ケア向上事業 認知症ケア連携推進事業 計															
4		介護予防・日常生活支援総合事業 認知予防・日常生活支援総合事業又は認知介護 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営) 及び任意事業 在宅医療・介護連携推進事業 生活支援体制整備事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援・ケア向上事業 認知症ケア連携推進事業 計															
5		介護予防・日常生活支援総合事業 認知予防・日常生活支援総合事業又は認知介護 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営) 及び任意事業 在宅医療・介護連携推進事業 生活支援体制整備事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援・ケア向上事業 認知症ケア連携推進事業 計															
合計		介護予防・日常生活支援総合事業 認知予防・日常生活支援総合事業又は認知介護 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営) 及び任意事業 在宅医療・介護連携推進事業 生活支援体制整備事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援・ケア向上事業 認知症ケア連携推進事業 計															

(注) 1 区分欄における「実施事業名」欄には、介護予防事業、介護予防・日常生活支援総合事業又は認知予防・日常生活支援総合事業のうち、実施している事業名を記入すること。
2 B欄には、交付要綱の4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
3 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
4 F欄には、C欄、D欄及びE欄と比較して残りの金額を記入すること。
5 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4項に定める交付金所要額を付し、1円未満の端数を切り上げ、これを記入すること。

別紙様式第14様式2

平成 年度地域支援事業交付金精算書市町村別内訳(総括表)

(項)高齢者日常生活支援等推進費
(目)地域支援事業交付金

(総括表)

項目	市町村名	区分	総事業費		寄付金その他の収入額		差引額 C(A-B)	対象経費 支出予定額	基準額	交付基本額	交付金所要額	備考					
			A	B	C	D							E	F	G		
1		実施事業名 包括的支援事業及び任意事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援推進員等設置事業 認知症ケア向上推進事業 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業 計															
2		実施事業名 包括的支援事業及び任意事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援推進員等設置事業 認知症ケア向上推進事業 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業 計															
3		実施事業名 包括的支援事業及び任意事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援推進員等設置事業 認知症ケア向上推進事業 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業 計															
4		実施事業名 包括的支援事業及び任意事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援推進員等設置事業 認知症ケア向上推進事業 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業 計															
5		実施事業名 包括的支援事業及び任意事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援推進員等設置事業 認知症ケア向上推進事業 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業 計															
合計		実施事業名 包括的支援事業及び任意事業 認知症初期集中支援推進事業 認知症地域支援推進員等設置事業 認知症ケア向上推進事業 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業 計															

(注) 1 区分欄における「実施事業名」欄には、介護予防事業又は介護予防・日常生活支援総合事業のうち、実施している事業名を記入すること。
2 B欄には、交付要綱の4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
3 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
4 F欄には、C欄、D欄及びE欄と比較して残りの金額を記入すること。
5 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4項に定める交付金所要額を付し、1円未満の端数を切り上げ、これを記入すること。

改正後（新）

改正前（旧）

以下様式削除

別紙様式第2様式2の(2)

様式2の(2) (介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村)

平成 年度 任意事業実施計画書

任意事業 (交付要綱3の(1)のウの事業)

介護保険法第115条 の45第3項に基づく 事業	ア 認知症初期集中支援推進事業 イ 認知症地域支援推進員等設置事業 ウ 認知症ケア向上推進事業 エ 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業
実施主体	
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
事業費	円
具体的な事業 名、事業内容 及び事業費	

(注)

- 1 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～エの該当する事業の記号に「○」を付けること。また、ア～ウの事業を複数実施している場合は、別様で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 2 「事業費」には、対象経費支出予定額を記入すること。
- 3 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」には、ア～エの各事業における具体的な取組毎に記入すること。
- 4 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」に事業内容を記載する際、具体的かつ簡潔に記入すること。

保険者名		
都道府県コード	市区町村コード	C・D

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第2様式3

注：（1）既得権 - 日産自動車株式の取得に関する権利

平成 年既得権付付・日産自動車株式の取得に関する権利

介得権取得日付の取得に関する権利

平成廿一七次事業年度既得権付付七次事業

種別	CP1 既得権付付事業	CP2 二次事業年度の既得権付付事業
既得権付付	円	円
既得権付付等の特許したと見出しと見出しの下欄	円	円
事業年度	A	A
事業年度 (既得権付付事業、 事業年度見出しと見出しの下欄)		

CP1 既得権付付事業

種別	CP1 既得権付付事業	CP2 二次事業年度の既得権付付事業
既得権付付	円	円
既得権付付等の特許したと見出しと見出しの下欄	円	円
事業年度	A	A
事業年度 (既得権付付事業、 事業年度見出しと見出しの下欄)		

注：（1）既得権付付等の特許したと見出しと見出しの下欄

種別	CP1 既得権付付事業	CP2 二次事業年度の既得権付付事業
既得権付付等の特許したと見出しと見出しの下欄	A	A
事業年度	A	A
事業年度	B	B

- CP1: 1 既得権付付 既得権付付等の特許したと見出しと見出しの下欄
 2 「既得権付付等の特許したと見出しと見出しの下欄」の欄について、介得権 - 日産自動車株式の取得に関する権利と見出しと見出しの下欄について、見出しと見出しの下欄の欄に記入することとする見出しと見出しの下欄の欄に記入すること。
 3 「事業年度」は既得権付付、二次事業年度の既得権付付、それぞれ事業年度見出しと見出しの下欄に記入すること。
 4 事業年度見出し、既得権付付等の特許したと見出しと見出しの下欄、既得権付付等の特許したと見出しと見出しの下欄に記入すること。
 5 事業年度見出しと見出しの下欄の欄に、平成廿一七次事業年度の既得権付付 - 日産自動車株式の取得に関する権利と見出しと見出しの下欄を記入して下さい。既得権付付等の特許したと見出しと見出しの下欄の欄に、平成廿一七次事業年度の既得権付付 - 日産自動車株式の取得に関する権利と見出しと見出しの下欄を記入して下さい。

既得権付付	既得権付付	C-0
既得権付付	既得権付付	

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第4様式2の(3)

様式2の(3)（介護予防・高齢生活支援協働事業を実施する町町村）

平成 年度事業実施報告書

任意事業（交付要領3の(1)のウの事業）

介護保険法第115条の4第3項に基づく事業	ア 認知症用期集中支援施設事業 イ 認知症高齢者機能訓練等支援事業 ウ 認知症ケア向上推進事業 エ 生活支援・介護予防サービスの連携推進事業
	実施主体
	実施期間 平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日
	事業費 円 （実施回数 円）
具体的な事業名、事業内容及び事業費	

（注）

- 「介護保険法第115条の4第3項に基づく事業」は、ア～エの該当する事業の記号に「Q」を付けること。また、ア～ウの事業を複数実施している場合は、別様で作成し、重複関係整理を添付すること。
- 「事業費」には、対象経費支出額を記入し、「実施回数」には、実施回数の額（対象経費支予定額）を記入すること。
- 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」には、ア～エの各事業における具体的な事業毎に記入すること。
- 「具体的な事業名、事業内容及び事業費」に事業名を記載する際、事業を実施している場合は、（ ）書きで、実施先を記入すること。
- 「具体的な事業名、事業内容及び事業費」に事業内容を記載する際、具体的な事業に記入すること。
- 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」に事業費を記載する際、実施額の総額に（ ）書きで、実施回数額の（対象経費支予定額）を記入すること。

採録番号					
都道府県コード	市区町村コード	CD			

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式4 様式3

様式3（介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村）

平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業実施報告書

介護保険法第115条の4第2項に基づく事業

予防サービス事業及び生活支援サービス事業

対 象 者	(ア) 居宅利用者向け事業	(イ) 二次予防事業対象者向け事業
事業費計	円	円
同事業を介護給付等で実施したと 仮定した場合に認定される費用の額	円	
事業対象者	人	人
事業詳細 (具体的な事業名、 事業内容及び事業費等を記入)		

ケアマネジメント事業

対 象 者	(ア) 居宅利用者向け事業	(イ) 二次予防事業対象者向け事業
事業費計	円	円
同事業を介護給付等で実施したと 仮定した場合に認定される費用の額	円	
事業詳細 (具体的な事業名、 事業内容及び事業費等を記入)		

※第 4 期介護保険事業計画における（ア）居宅利用者向け事業に関する対象者数の推移について

	平成 年度	平成 年度	平成 年度
居宅利用者数	人	人	人
本事業対象者数	人	人	人
割合	%	%	%

- (注) 1 事業費は、対象経費実支出額を記入すること。
- 2 「同事業を介護給付等で実施したと仮定した場合に認定される費用の額」の欄については、介護予防・日常生活支援総合事業で見込んでいた居宅利用者にかかる経費について、当該事業で行わないものとするは、介護給付等に換することとなる費用の認定額を記入すること。
- 3 「事業対象者」は居宅利用者、二次予防事業対象者、それぞれ事業を利用した実人数を記載すること。
- 4 事業詳細には、取組毎に具体的な事業名、実施内容及び事業費等を順番に記入すること。
- 5 居宅利用者に関する見込み者数の推移は、平成24年度、25年度に介護予防・日常生活支援総合事業を実施した場合は、各事業年度の事業を利用した実人数を記載して下さい。実施していない場合は記載は不要です。また、平成26年度の本事業対象者数と、3の事業対象者の居宅利用者の人数は同じ数字を記載して下さい。

保険者名		
郵便番号コード	市区町村コード	CD

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第8様式2の(2)

様式2の(2) (介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村)

平成 年度 任意事業実施計画書

任意事業（交付要綱3の(2)のウの事業）

介護保険法第115条 の45第3項に基づく 事業	ア 認知症初期集中支援推進事業 イ 認知症地域支援推進員等設置事業 ウ 認知症ケア向上推進事業 エ 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業
実施主体	
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
事業費	円
具体的な事業 名、事業内容 及び事業費	

(注)

- 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～エの該当する事業の記号に「○」を付けること。また、ア～ウの事業を複数実施している場合は、別様で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 「事業費」には、対象経費支出予定額を記入すること。
- 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」には、ア～エの各事業における具体的な取組毎に記入すること。
- 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」に事業内容を記載する際、具体的かつ簡潔に記入すること。

保険者名		
都道府県コード	市区町村コード	C・D

改正後（新）

改正前（旧）

別紙様式第10様式2の(3)

様式2の(3)（介護予防・日常生活支援総合事業を実施しない市町村）

平成 年度事業実施報告書

任意事業（交付要綱3の(2)のウの事業）

介護保険法第115条 の45第3項に基づく 事業	ア 認知症初期集中支援推進事業 イ 認知症地域支援推進員等設置事業 ウ 認知症ケア向上推進事業 エ 生活支援・介護予防サービスの基盤整備事業
実施主体	
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
事業費	円 （実施計画額 円）
具体的な事業 名、事業内容 及び事業費	

(注)

- 1 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～エの該当する事業の記号に「○」を付けること。また、ア～ウの事業を複数実施している場合は、別様で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 2 「事業費」には、対象経費実支出額を記入し、「実施計画額」には、実施計画時の額（対象経費支出予定額）を記入すること。
- 3 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」には、ア～エの各事業における具体的な取組毎に記入すること。
- 4 「具体的な事業名、事業内容及び事業費」に事業名を記載する際、事業を委託している場合は、（ ）書きで、委託先を記入すること。
- 5 「具体的な事業名、事業内容及び事業費」に事業内容を記載する際、具体的かつ簡潔に記入すること。
- 6 「具体的な事業名、実施内容及び事業費」に事業費を記載する際、実績額の後ろに（ ）書きで、実施計画時の額（対象経費支出予定額）を記入すること。

保険者名	
都道府県コード	市区町村コード C/D

【改正後全文】

厚生労働省発老第0523003号
平成20年5月23日
最終改正：厚生労働省発老0301第4号
平成28年3月1日

各都道府県知事殿

厚生労働事務次官

地域支援事業交付金の交付について

介護保険法（平成9年法律第123号）第122条の2に基づく交付金の交付については、別紙「地域支援事業交付金交付要綱」により行うこととされ、平成20年4月1日から適用することとされたので通知する。

なお、貴管内市町村等に対する周知について、ご配慮願いたい。

別 紙

地域支援事業交付金交付要綱

(通則)

- 1 介護保険法（平成9年法律第123号。以下「法」という。）第122条の2に基づく交付金については、予算の範囲内において交付するものとし、法、介護保険法施行令（平成10年政令第412号。以下「政令」という。）、介護保険法施行規則（平成11年厚生省令第36号）、介護保険の国庫負担金の算定等に関する政令（平成10年政令第413号）、介護保険法第122条の2第2項に規定する交付金の額の算定に関する省令（平成27年厚生労働省令第58号。以下「算定省令」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号。以下「適正化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号。以下「適正化令」という。）及び厚生労働省所管補助金等交付規則（平成12年厚生省・労働省令第6号）の規定によるほか、この交付要綱の定めるところによる。

(交付の目的及び趣旨)

- 2 この交付金は、市町村（特別区、一部事務組合及び広域連合等を含む。以下同じ。）が、地域支援事業を行うことにより、被保険者が要介護状態又は要支援状態となることを予防し、社会に参加しつつ、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とし、地域における包括的な相談及び支援体制、多様な主体の参画による日常生活の支援体制、在宅医療と介護の連携体制及び認知症高齢者への支援体制の構築等を一体的に推進する。

(交付の対象)

- 3 この交付金は次の(1)、(2)及び(3)に掲げる市町村の区分に応じ、それぞれアからウまでに掲げる事業を交付の対象とする。
 - (1) 介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村
 - ア 法第115条の45第1項第1号及び同項第2号に基づき、平成18年6月9日老発第0609001号厚生労働省老健局長通知の別紙「地域支援事業実施要綱」（以下「実施要綱」という。）別記1の第2の1により市町村が行う事業（以下「介護予防・日常生活支援総合事業」という。）
 - イ 法第115条の45第2項各号及び法第115条の48に基づき、実施要綱別記4及び5により市町村が行う事業（以下「包括的支援事業」といい、このうち法第115条の45第2項第1号から第3号までを「包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）」とし、同項第4号から第6号及び法第115条の48に掲げる事業を「包括的支援事業（社会保障充実分）」という。）

ウ 法第 115 条の 45 第 3 項に基づき、実施要綱別記 6 により市町村が行う事業（以下「任意事業」という。）

(2) 旧介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村

ア 地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律（平成 26 年法律第 83 号）附則第 14 条により、なおその効力を有するものとされた同法第 5 条の規定による改正前の法（以下「旧法」という。）第 115 条の 45 第 1 項第 1 号及び同項第 2 号並びに第 2 項各号に基づき、実施要綱別記 2 により市町村が行う事業（以下「旧介護予防・日常生活支援総合事業」という。）

イ 包括的支援事業

ウ 任意事業

(3) 旧介護予防事業を実施する市町村

ア 旧法第 115 条の 45 第 1 項第 1 号に基づき、実施要綱別記 3 により市町村が行う事業（以下「旧介護予防事業」という。）

イ 包括的支援事業

ウ 任意事業

(交付額の算定方法)

4 この交付金の交付額は、次により算出するものとする。

(1) 3の(1)に掲げる市町村の場合は、次により算出するものとする。

ア 次の表の第 1 欄に定める区分ごとに、第 2 欄に定める基準額と第 3 欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。

イ アにより選定された額に、第 4 欄に定める交付率を乗じて得た合計額に、算定省令により市町村ごとに算定された額（以下「総合事業調整交付金」という。）を加えた額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に 1 円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。

(2) 3の(2)に掲げる市町村の場合は、次により算出するものとする。

ア 次の表の第 1 欄に定める区分ごとに、第 2 欄に定める基準額と第 3 欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。ただし、旧介護予防・日常生活支援総合事業と包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）及び任意事業の基準額の合計は、給付見込額（旧介護予防・日常生活支援総合事業を行わないこととした場合に、介護給付等に要することとなる費用の予想額。）に 0.03 を乗じて得た額とするが、介護保険法施行令及び地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備等及び経過措置に関する政令の一部を改正する政令（平成 27

年政令第 269 号) 第 2 条の規定による旧政令第 37 条の 13 第 3 項各号に該当する市町村にあっては、次に定める額とすることができる。

(ア) 給付見込額に 0.015 を乗じて得た額が 300 万円に満たない市町村(以下「小規模市町村」という。)が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を 300 万円とした場合にあっては、給付見込額に 0.015 を乗じて得た額に 300 万円を加えた額とする。

(イ) 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に 0.03 を乗じて得た額を超える場合(厚生労働大臣が特に必要と認める場合に限るものとし、(ア)の適用を受けるものを除く。)にあっては、給付見込額に 0.04 を乗じて得た額を超えない範囲で、厚生労働大臣が相当と認める額とする。

イ アにより選定された額に、第 4 欄に定める交付率を乗じて得た合計額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に 1 円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。

(3) 3 の(3)に定める市町村の場合は、次により算出するものとする。

ア 次の表の第 1 欄に定める区分ごとに、第 2 欄に定める基準額と第 3 欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。ただし、旧介護予防事業と包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業の基準額の合計は、給付見込額(介護保険法施行令及び地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律の一部の施行に伴う関係政令の整備等及び経過措置に関する政令の一部を改正する政令第 2 条の規定による旧政令第 37 条の 13 第 1 項及び同条第 2 項に規定する給付見込額をいう。)に 0.03 を乗じて得た額(給付見込額に 0.015 を乗じて得た額が 300 万円に満たない市町村が包括的支援事業及び任意事業の基準額を 300 万円とした場合にあっては、給付見込額に 0.015 を乗じて得た額に 300 万円を加えた額)とする。

イ アにより選定された額に、第 4 欄に定める交付率を乗じて得た合計額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に 1 円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。

(4) 年度途中から 3 の(1)に掲げる市町村となる場合は、次により算出するものとする。

ア 次の表の第 1 欄に定める区分ごとに、第 2 欄に定める基準額と第 3 欄に定める対象経費の実支出額とを比較して少ない方の額と、総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額を選定する。

ただし、年度途中から介護予防・日常生活支援総合事業を実施する場合は、介護予防・日常生活支援総合事業と併せて旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業を実施することになるため、この場合の第 2 欄に定める基準額は、第 1 欄に定める区分が介護予防・日常生活支援総合事業の基準額を使用し、第 3

欄に定める対象経費は、介護予防・日常生活支援総合事業、旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業の対象経費の実支出額の合計額（以下「介護予防・日常生活支援総合事業等合計額」という。）とする。

イ アにより選定された介護予防・日常生活支援総合事業等合計額が、第2欄に定める介護予防・日常生活支援総合事業の基準額を超えない場合は、第1欄に定める区分ごとに第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額に、総合事業調整交付金を加えた額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。

ウ アにより選定された介護予防・日常生活支援総合事業等合計額が、第2欄に定める介護予防・日常生活支援総合事業の基準額を超える場合は、旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業の対象経費の実支出額から優先して調整することにより、介護予防・日常生活支援総合事業の基準額を超えない額とした上で、第1欄に定める区分ごとに第4欄に定める交付率を乗じて得た合計額に、総合事業調整交付金を加えた額を交付額とする。ただし、交付率を乗じた額に1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てるものとする。

1 区分	2 基準額	3 対象経費	4 交付率
介護予防・日常生活支援総合事業	以下の①又は②に掲げる額のうちいずれか高い額 ① アに掲げる額からイに掲げる額を控除して得た額 ア 介護予防・日常生活支援総合事業（年度途中の実施も含む。）の事業開始の前年度の予防給付費額（介護予防訪問介護、介護予防通所介護、介護予防支援に係るものに限る。）並びに旧介護予防・日常生活支援総合事業費額及び旧介護予防事業費額の合計額に当該市町村の75歳以上高齢者の伸び（注）を乗じて得た額 イ 当該年度の予防給付費額（介護予防訪問介護、介護	介護予防・日常生活支援総合事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料（介護予防のための器具等をレンタル又はリースする場合は、購入する場合の単価が10万円以下のものに限る。）、備品購入費（介護予防のための器具等を購入する場合は、単価10万円以下のものに限る。）、負担金、補助金 なお、給料、職員手当等及び共済費については、介護予防・生活支援サービスのうち、訪問型サービスC及び通所型サービスC	20 / 100

	<p>予防通所介護、介護予防支援に係るものに限る。)</p> <p>② アに掲げる額からイに掲げる額を控除して得た額</p> <p>ア 介護予防・日常生活支援総合事業（年度途中の実施も含む。）の事業開始の前年度の予防給付費額並びに旧介護予防・日常生活支援総合事業費額及び旧介護予防事業費額の合計額に当該市町村の75歳以上高齢者の伸び（注）を乗じて得た額</p> <p>イ 当該年度の予防給付費額</p> <p>（注）10月1日時点の住民基本台帳における75歳以上高齢者数の当該年度を除く直近3か年の平均伸び率</p> <p>ただし、平成27年度から平成29年度までは、以下の③又は④に掲げる額のうちいずれか高い額を基準額とすることができる。</p> <p>③ アに掲げる額からイに掲げる額を控除して得た額</p> <p>ア 介護予防・日常生活支援総合事業（年度途中の実施も含む。）の事業開始の前年度の予防給付費額（介護予防訪問介護、介護予防通所介護、介護予防支援に係るものに限る。）並びに旧介護予防</p>	<p>に従事する保健師に係る経費を除く。</p>	
--	---	--------------------------	--

	<p>・日常生活支援総合事業費額及び旧介護予防事業費額の合計額に1.1を乗じた額</p> <p>イ 当該年度の予防給付費額（介護予防訪問介護、介護予防通所介護、介護予防支援に係るものに限る。）</p> <p>④ アに掲げる額からイに掲げる額を控除して得た額</p> <p>ア 介護予防・日常生活支援総合事業（年度途中の実施も含む。）の事業開始の前年度の予防給付費額並びに旧介護予防・日常生活支援総合事業費額及び旧介護予防事業費額の合計額に1.1を乗じて得た額</p> <p>イ 当該年度の予防給付費額</p> <p>なお、市町村における総合事業の円滑な実施に配慮し、対象経費の支出予定額が基準額を超える場合は、個別協議を実施し、厚生労働大臣が特に必要と認める場合に限り、その額に置き換えることができる。</p>		
<p>旧介護予防・日常生活支援総合事業</p>	<p>給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。</p> <p>ただし、旧政令第37条の13第3項各号に該当する市町村にあっては、次に定める額とすることができる。</p>	<p>旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及</p>	<p>25 / 100</p>

	<p>① 小規模市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を300万円とした場合は、給付見込額に0.015を乗じて得た額とする。</p> <p>② 旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の予想額が給付見込額に0.02を乗じて得た額を超える場合（厚生労働大臣が特に必要と認める場合に限り、①の適用を受けるものを除く。）にあつては、次に定める額とする。</p> <p>㊦ 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超えない場合は、当該額から包括的支援事業及び任意事業に要する費用の額を控除して得た額とする。</p> <p>㊧ 地域支援事業に要する費用の予想額が、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超える場合は、給付見込額に0.03を乗じて得た額を超えない範囲で、厚生労働大臣が相当と認める額とする。</p>	<p>び賃借料（介護予防のための器具等をレンタル又はリースする場合は、購入する場合の単価が10万円以下のものに限る。）、備品購入費（介護予防のための器具等を購入する場合は、単価10万円以下のものに限る。）、負担金、補助金 なお、給料、職員手当等及び共済費については、二次予防事業のうち、通所型介護予防事業及び訪問型介護予防事業（旧介護予防・日常生活支援総合事業を行う場合にあつては、二次予防事業対象者に対する予防サービス事業のうち、通所型予防サービス及び訪問相談・指導）に従事する保健師に係る経費を除く。</p>	
--	---	---	--

旧介護予防事業	<p>給付見込額に0.02を乗じて得た額とする。</p> <p>ただし、小規模市町村が、包括的支援事業及び任意事業の基準額を300万円とした場合は、給付見込額に0.015を乗じて得た額とする。</p>		
包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）及び任意事業	<p>平成26年度の包括的支援事業及び任意事業の上限額に当該市町村の65歳以上高齢者数の伸び（注）を乗じて得た額とする。平成28年度以降は前年度に算定した基準額に当該市町村の65歳以上高齢者数の伸び（注）を乗じて得た額とする（以下「原則の上限額」という。）。</p> <p>なお、以下の（ア）と（イ）の両方の取組を推進する市町村については、上記の計算式に代えて次の計算式により基準額（下記の①と②の合計額。以下「特例の上限額」という。）を算出することを可能とする。一部事務組合及び広域連合においては、構成市町村ごとに計算した額の合計額を基準額とする（平成27年度から29年度までに原則の上限額又は特例の上限額を選択可。）。</p> <p>（ア）少なくとも介護給付適正化の主要5事業（介護保険法施行令附則第8条第1項の規定に基づき、厚生</p>	包括的支援事業及び任意事業に必要な報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、報償費、旅費、需用費、役員費、委託料、使用料及び賃借料、備品購入費、負担金、補助金、扶助費	39 / 100

	<p>労働大臣が定める主要介護給付等費用適正化事業（平成20年厚生労働省告示第31号）に掲げる事業をいう。）を全て実施していること。</p> <p>(イ) 介護予防・日常生活支援総合事業を実施していること。</p> <p>※ 平成26年度の包括的支援事業・任意事業の上限額が12,500千円未満の市町村は(ア)の要件を満たさなくても可。</p> <p>① 地域包括支援センターの運営 25,000千円に当該市町村の65歳以上高齢者数を4,500で除した値を乗じた額</p> <p>※ ただし、この計算の結果が12,500千円以下の場合には12,500千円とする。</p> <p>② 任意事業の実施 930円に当該市町村の65歳以上高齢者数を乗じて得た額</p> <p>なお、特例の上限額の範囲内であれば、地域包括支援センターの運営に係る費用は①により算出される額を超えても差し支えない。一方、任意事業の実施に係る費用は、以下の(a)又は(b)のいずれか高い金額を超えてはならない。</p> <p>(a) ②により算出される</p>		
--	---	--	--

	<p>額</p> <p>(b) ①及び②の合計額を基準額として選択した年度(=移行年度)の前年度の任意事業実績額×当該市町村の65歳以上高齢者数の伸び率</p> <p>(注) 10月1日時点の住民基本台帳における65歳以上高齢者数の当該年度を除く直近3か年の平均伸び率</p>		
<p>包括的支援事業(社会保障充実分)</p>	<p>以下の①から④の算定式の合計額を「標準額」とし、これを基本として、各市町村の実情に応じて算定した額で厚生労働大臣が認める額とする。</p> <p>なお、現に実施されていない事業については標準額に含めることはできない。</p> <p>① 実施要綱の別記5の1に掲げる在宅医療・介護連携推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(a)及び(b)の合計額 (a)1,058千円 (b)3,761千円×地域包括支援センター数(注) <p>② 実施要綱の別記5の2に掲げる生活支援体制整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1層(市町村圏域)8,000千円 <p>※ ただし、指定都市の場合は、当該額に行政区の数、一部事務組合及び広域連</p>		

	<p>合の場合は、当該額に構成市町村の数を乗じることとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2層（日常生活圏域） 4,000 千円× 日常生活圏域数（法第 117 条第 2 項第 1 号の区域をいう。以下同じ）の数 <p>※ 日常生活圏域が 1 つである場合は、第 2 層は算定できない。</p> <p>③ 実施要綱の別記 5 の 3 に掲げる認知症総合支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援事業 10,266 千円 <p>※ ただし、指定都市の場合は、行政区の数、一部事務組合及び広域連合の場合は、当該額に構成市町村の数を乗じることとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域支援・ケア向上事業 6,802 千円 <p>※ ただし、一部事務組合及び広域連合の場合は、当該額に構成市町村の数を乗じることとする。</p> <p>④ 実施要綱の別記 5 の 4 に掲げる地域ケア会議推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1,272 千円× 地域包括支援センター数(注) <p>(注) 法第 115 条の 46 第 1 項に規定する地域包括支援センターをいう。</p>		
--	--	--	--

(交付の条件)

- 6 この交付金の交付の決定には、次の条件が付されるものとする。
- (1) 事業に要する経費の配分の変更はしてはならない。
 - (2) 事業の内容の変更（軽微な変更を除く。）をする場合には、厚生労働大臣の承認を受けなければならない。
 - (3) 事業を中止し、又は廃止する場合には、厚生労働大臣の承認を受けなければならない。
 - (4) 事業が予定の期間内に完了しない場合又は事業の遂行が困難となった場合には、速やかに厚生労働大臣に報告してその指示を受けなければならない。
 - (5) 事業により取得し、又は効用の増加した価格が単価 50 万円以上の機械、器具及びその他の財産については、適正化令第 14 条第 1 項第 2 号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過するまで、厚生労働大臣の承認を受けずに、この交付金の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、又は廃棄してはならない。
 - (6) 厚生労働大臣の承認を受けて財産を処分することにより収入があった場合には、その収入の全部又は一部を国庫に納付させることがある。
 - (7) 事業により取得し、又は効用の増加した財産については、事業完了後においても善良な管理者の注意をもって管理するとともに、その効率的な運営を図らなければならない。
 - (8) 交付金と事業に係る予算及び決算との関係を明らかにした別紙様式第 1 による調書を作成するとともに、事業に係る歳入及び歳出について証拠書類を整理し、かつ調書及び証拠書類を交付金の額の確定の日（事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日）の属する年度の終了後 5 年間保管しておかななければならない。ただし、事業により取得し、又は効用の増加した財産がある場合は、前記の期間を経過後、当該財産の財産処分が完了する日、又は適正化令第 14 条第 1 項第 2 号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過する日のいずれか遅い日まで保管しておかななければならない。

(申請手続)

- 7 この交付金の交付の申請は、次により行うものとする。
- (1) 適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合
 - ア 市町村の長は、別紙様式第 2 を、関係書類とともに、都道府県知事が定める日までに都道府県知事に提出するものとする。
 - イ 都道府県知事は、アの申請書を受理したときは、これを審査し、取りまとめのうえ、別紙様式第 8 により関係書類を添えて、別に定める日までに厚生労働大臣に提出するものとする。

(2) (1)以外の場合

市町村の長は、別紙様式第2を、関係書類とともに、別に定める日までに厚生労働大臣に提出するものとする。

(変更申請手続)

8 この交付金の交付決定後の事情の変更により申請の内容を変更して追加交付申請等を行う場合には、次により行うものとする。

(1) 適正化法第26条第2項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合

ア 市町村の長は、別紙様式第3を、関係書類とともに、都道府県知事が定める日までに都道府県知事に提出するものとする。

イ 都道府県知事は、アの申請書を受理したときは、これを審査し、取りまとめのうえ、別紙様式第8により関係書類を添えて、毎年度1月末日までに厚生労働大臣に提出するものとする。

(2) (1)以外の場合

市町村の長は、別紙様式第3を、関係書類とともに、毎年度1月末日までに厚生労働大臣に提出するものとする。

(交付決定までの標準的期間)

9 この交付金の交付の決定までの標準的な期間は、次のとおりとする。

(1) 適正化法第26条第2項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合において、都道府県知事は、7の(1)のア若しくは8の(1)のアによる申請書が到達した日から起算して原則として1月以内に厚生労働大臣に提出するものとし、厚生労働大臣は、申請書が到達した日から起算して原則として2月以内に交付の決定（決定の変更を含む。）を行うものとする。

(2) (1)以外の場合、厚生労働大臣は、7の(2)若しくは8の(2)による申請書が到達した日から起算して原則として2月以内に交付の決定（決定の変更を含む。）を行うものとする。

(交付決定の通知)

10 適正化法第26条第2項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合、都道府県知事は、この交付金について厚生労働大臣の交付決定（決定の変更を含む。）があったときには、市町村の長に対し、別紙様式第5又は別紙様式第6により、速やかに交付決定内容及びこれに付された条件の通知を行うものとする。

(実績報告)

11 この交付金の事業実績報告は、次により行うものとする。

(1) 適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合

ア 市町村の長は、別紙様式第 4 を、関係書類とともに、都道府県知事が定める日までに都道府県知事に提出するものとする。

イ 都道府県知事は、アの書類を受理したときは、これを審査し、取りまとめのうえ、別紙様式第 8 により関係書類を添えて、翌年度 6 月末日（6 の(3)により事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、当該承認通知を受理した日から起算して 1 月を経過した日）までに厚生労働大臣に提出するものとする。

(2) (1)以外の場合

市町村の長は、別紙様式第 4 を、関係書類とともに、翌年度 6 月末日（6 の(3)により事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、当該承認通知を受理した日から起算して 1 月を経過した日）までに厚生労働大臣に提出するものとする。

(交付金の額の確定の通知)

12 適正化法第 26 条第 2 項の規定に基づき、補助金等の交付に関する事務の一部を都道府県が行う場合、都道府県知事は、この交付金について厚生労働大臣の交付額の確定があったときには、市町村の長に対し、別紙様式第 7 により、速やかに確定の通知を行うものとする。

(交付金の返還)

13 厚生労働大臣は、交付すべき交付金の額を確定した場合において、既にその額を超える交付金が交付されているときは、期限を定めて、その超える部分について国庫に返還することを命ずる。

(その他)

14 特別の事情により 4、7、8 及び 11 に定める算定方法、手続によることができない場合には、あらかじめ厚生労働大臣の承認を受けてその定めるところによるものとする。

別紙様式第1

平成 年度地域支援事業交付金調書

平成 年度厚生労働省所管

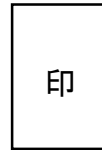
(地方公共団体名)

国			地 方 公 共 団 体								備 考
歳出予算科目	交付決定の額	交付率	歳 入			歳 出					
			科 目	予算現額	収入済額	科 目	予算現額	うち交付金 相当額	支出済額	うち交付金 相当額	
	円			円	円		円	円	円	円	

- 1 「地方公共団体」の「科目」は、歳入にあつては款、項、目、節を、歳出にあつては、款、項、目をそれぞれ記入すること。
- 2 「予算現額」は、歳入にあつては、当初予算額、補正予算額等の区分を、歳出にあつては、当初予算額、補正予算額、予備費支出額、流用増減等の区分を明らかにして記入すること。
- 3 「備考」欄は、参考となるべき事項を適宜記入すること。

厚生労働大臣 殿

市 町 村 長
広域連合代表
組 合 長



平成 年度地域支援事業交付金の交付申請について

標記について、次により交付金を交付されるよう関係書類を添えて申請する。

1 交付金申請額	金	円	
〔内訳〕	介護予防・日常生活支援総合事業	金	円
	旧介護予防・日常生活支援総合事業		
	又は旧介護予防事業	金	円
	包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業	金	円
	包括的支援事業(社会保障充実分)	金	円

2 添付書類(以下該当する様式のみを添付すること)

全事業共通

- (1) 平成 年度地域支援事業交付金所要額調(様式1)
- (2) 平成 年度任意事業実施計画書(様式2)
- (3) 平成 年度包括的支援事業(社会保障充実分)計画書(様式3)
- (4) 平成 年度歳入歳出予算書(見込書)抄本

介護予防・日常生活支援総合事業実施市町村で該当がある場合のみ

- (5) 平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施計画書(様式1の(1)別添1)
- (6) 平成 年度包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業の特例上限額適用に係る事業実施計画書(様式4)

旧介護予防・日常生活支援総合事業実施市町村で該当がある場合のみ

- (7) 平成 年度旧介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施計画書(様式5)

平成 年度地域支援事業交付金所要額調

区 分	総事業費 A 円	寄付金その他の 収入額 B 円	差引額 C(A-B) 円	対象経費 支出予定額 D 円	基準額 E 円	交付基本額 F 円	交付金所要額 G 円	備 考
1 介護予防・日常生活支援総合事業								
(1)訪問型サービス(第1号訪問事業)								
ア 訪問介護相当サービス								
イ 訪問型サービスA(緩和した基準によるサービス)								
ウ 訪問型サービスB(住民主体による支援)								
エ 訪問型サービスC(短期集中予防サービス)								
オ 訪問型サービスD(移動支援)								
カ その他								
(2)通所型サービス(第1号通所事業)								
ア 通所介護相当サービス								
イ 通所型サービスA(緩和した基準によるサービス)								
ウ 通所型サービスB(住民主体による支援)								
エ 通所型サービスC(短期集中予防サービス)								
オ その他								
(3)その他生活支援サービス(第1号生活支援事業)								
ア 栄養改善を目的とした配食								
イ 定期的な安否確認及び緊急時の対応								
ウ 訪問型サービス・通所型サービスの一体的提供等								
エ その他								
(4)介護予防ケアマネジメント(第1号介護予防支援事業)								
(5)審査支払手数料								
(6)高額介護予防サービス費相当事業等								
(7)一般介護予防事業								
ア 介護予防把握事業								
イ 介護予防普及啓発事業								
ウ 地域介護予防活動支援事業								
エ 一般介護予防事業評価事業								
オ 地域リハビリテーション活動支援事業								
2 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業								
(1)包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)								
(2)任意事業								
ア 介護給付等費用適正化事業								
イ 家族介護支援事業								
ウ その他の事業								
(ア)成年後見制度利用支援事業								
(イ)福祉用具・住宅改修支援事業								
(ウ)認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業								
(エ)認知症サポーター等養成事業								
(オ)重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業								
(カ)地域自立生活支援事業								
3 小 計(1+2)								
4 包括的支援事業(社会保障充実分)								
(1)在宅医療・介護連携推進事業								
(2)生活支援体制整備事業								
(3)認知症初期集中支援推進事業								
(4)認知症地域支援・ケア向上事業								
(5)地域ケア会議推進事業								
5 合 計(3+4)								

(注) 1 B欄には、交付要綱4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 3 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
 4 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額(1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。)を記入すること。

保 険 者 名	
都道府県コード	
市区町村コード	
C・D	

個別協議の有無	総合事業調整交付金
① 総合事業	③ 調整基準標準事業費額 円
② 包括的支援事業(社会保障充実分)	④ 総合事業調整交付金所要額 円

別紙様式第2様式1の(1)別添1

平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施計画書

介護予防・日常生活支援総合事業(交付要綱3の(1)のアの事業)

実施主体	〇〇市		
実施時期	年	月	日から実施
対象経費支出予定額	円		
上限額			
(1) 原則の上限額			円
(2) 選択可能な上限額(給付全体)			円
(3) (1)の10%特例選択			円
(4) (2)の10%特例選択			円
上限超過の理由(以下の理由に該当する箇所に○を付け、具体的な内容を記載すること)			
	介護予防に効果的なプログラムを新たに導入等		
	介護予防や生活支援サービスの供給体制が近隣市町村と比較して著しく不足等		
	小規模市町村で通いの場の新たな整備等		
	その他		
内容 (具体的に 記載)			

※上限額引き上げは、当該年度一時的に費用が伸びるが、住民主体の取組が促進され、費用の伸びが低減する見込みがあることが前提。

※上限超過の理由として、該当箇所に○を付けた場合には以下の点に留意の上、具体的に内容を記載すること。個別協議については、理由によっては認められない場合もあるので留意すること。

・介護予防に効果的なプログラムを新たに導入・・・具体的に新たに導入したプログラム内容を具体的に記載すること。なお、原則として導入した年度のみ個別協議が認められるものとするが、やむを得ない理由がある場合はこの限りではない。

・介護予防や生活支援サービスの供給体制が近隣市町村と比較して著しく不足・・・県内の市町村との比較か隣接市町村との比較かなど具体的な比較方法を数値も含めて記載する。

・小規模市町村で通いの場の新たな整備・・・整備に要した額を具体的に記載する。

・その他・・・内容が詳細に分かるように具体的に記載する。

平成 年度地域支援事業交付金所要額調

区 分	総事業費	寄付金その他の収入額	差引額	対象経費支出予定額	基準額	交付基本額	交付金所要額	備 考
	A 円	B 円	C(A-B) 円	D 円	E 円	F 円	G 円	
1 旧介護予防・日常生活支援総合事業								
(1) 要支援者向け事業								
ア 予防サービス事業及び生活支援サービス事業								
イ ケアマネジメント事業								
ウ 評価事業								
(2) 二次予防事業対象者向け事業								
ア 二次予防事業対象者の把握事業								
イ 予防サービス事業及び生活支援サービス事業								
ウ ケアマネジメント事業								
エ 評価事業								
(3) 一次予防事業対象者向け事業								
ア 介護予防普及啓発事業								
イ 地域介護予防活動支援事業								
ウ 一次予防事業評価事業								
エ 地域リハビリテーション活動支援事業								
(4) 審査支払手数料								
(5) 総合事業費精算金								
2 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業								
(1) 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)								
(2) 任意事業								
ア 介護給付等費用適正化事業								
イ 家族介護支援事業								
ウ その他の事業								
(ア) 成年後見制度利用支援事業								
(イ) 福祉用具・住宅改修支援事業								
(ウ) 認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業								
(エ) 認知症サポーター等養成事業								
(オ) 重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業								
(カ) 地域自立生活支援事業								
3 小 計(1+2)								
4 包括的支援事業(社会保障充実分)								
(1) 在宅医療・介護連携推進事業								
(2) 生活支援体制整備事業								
(3) 認知症初期集中支援推進事業								
(4) 認知症地域支援・ケア向上事業								
(5) 地域ケア会議推進事業								
5 合 計(3+4)								

- (注) 1 B欄には、交付要綱4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 3 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
 4 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額(1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。)を記入すること。

給付見込額	
	円
包括的支援事業(社会保障充実分)の個別協議の有無	

保険者名	
都道府県コード	
市区町村コード	
C・D	

平成 年度地域支援事業交付金所要額調

区 分	総事業費 A 円	寄付金その他 の収入額 B 円	差引額 C(A-B) 円	対象経費 支出予定額 D 円	基準額 E 円	交付基本額 F 円	交付金所要額 G 円	備考
1 旧介護予防事業								
(1)二次予防事業								
ア 二次予防事業の対象者把握事業								
イ 通所型介護予防事業								
ウ 訪問型介護予防事業								
エ 二次予防事業評価事業								
(2)一次予防事業								
ア 介護予防普及啓発事業								
イ 地域介護予防活動支援事業								
ウ 一次予防事業評価事業								
エ 地域リハビリテーション活動支援事業								
(3)総合事業費精算金								
2 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業								
(1)包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)								
(2)任意事業								
ア 介護給付等費用適正化事業								
イ 家族介護支援事業								
ウ その他の事業								
(ア)成年後見制度利用支援事業								
(イ)福祉用具・住宅改修支援事業								
(ウ)認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業								
(エ)認知症サポーター等養成事業								
(オ)重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業								
(カ)地域自立生活支援事業								
3 小 計(1+2)								
4 包括的支援事業(社会保障充実分)								
(1)在宅医療・介護連携推進事業								
(2)生活支援体制整備事業								
(3)認知症初期集中支援推進事業								
(4)認知症地域支援・ケア向上事業								
(5)地域ケア会議推進事業								
5 合 計(3+4)								

- (注) 1 B欄には、交付要綱4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 3 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
 4 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額(1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。)を記入すること。

給付見込額	円
包括的支援事業(社会保障充実分)の個別協議の有無	

保 険 者 名	
都道府県コード	
市区町村コード	
C・D	

平成 年度任意事業実施計画書

任意事業（交付要綱3の（1）、（2）、（3）のウの事業）

介護保険法第115条の45第3項に基づく事業	ア 介護給付等費用適正化事業	
	イ 家族介護支援事業	
	ウ その他の事業	
	実施主体	〇〇市
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
事業費	円	
事業名 (事業費)	事業内容	実施目標
(円)		
(円)		
(円)		
(円)		
(円)		

(注)

- 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～ウの該当する事業の記号に「○」を付けること。また、ア～ウの事業を複数実施している場合は、別葉で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 「事業費」には、対象経費支出予定額を記入すること。
- 「事業名（事業費）」には、様式2別添より選択し、番号のみ記入すること。
- 「事業内容」には、ア～ウの各事業の事業内容を具体的かつ簡潔に記入すること。
- 「実施目標」には、ア～ウの各事業が1年間で達成すべき目標について、定量的・定性的な観点から記入すること。

任意事業

介護給付等費用適正化事業	① 認定調査状況チェック
	② ケアプランの点検
	③ 住宅改修等の点検
	④ 医療情報との突合・縦覧点検
	⑤ 介護給付費通知
	⑥ 給付実績を活用した分析・検証事業
	⑦ 介護サービス事業者等への適正化支援事業
家族介護支援事業	⑧ 介護教室の開催
	⑨ 認知症高齢者見守り事業
	⑩ 健康相談・疾病予防等事業
	⑪ 介護者交流会の開催
	⑫ 介護自立支援事業
	⑬ 介護用品の支給
その他の事業	⑭ 成年後見制度利用支援事業
	⑮ 福祉用具・住宅改修支援事業
	⑯ 認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業
	⑰ 認知症サポーター等養成事業
	⑱ 重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業
	⑲ 高齢者の安心な住まいの確保に資する事業
	⑳ 介護サービスの質の向上に資する事業
	㉑ 地域資源を活用したネットワーク形成に資する事業
	㉒ 家庭内の事故等への対応の体制整備に資する事業

平成 年度包括的支援事業（社会保障充実分）実施計画書

包括的支援事業（社会保障充実分）（交付要綱3の（1）、（2）、（3）のイの事業）

実施主体	〇〇市									
実施時期	①平成 年 月 日から実施					②平成 年 月 日から実施				
	③平成 年 月 日から実施					④平成 年 月 日から実施				
社会保障充実分 総事業費	円			標準額 (4事業の合計額)		円				
①在宅医療・介護連 携推進事業	事業費	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	
	0円	(イ)等の会議		(オ)の相談窓口	(オ)の相談員等	(カ)多職種研修	(ク)その他の研修			
		0回	0箇所		0人	0回	0回			
②生活支援体制整備 事業	事業費	第1層				第2層				
		コーディネーター		協議体		コーディネーター		協議体		
	0円	0人		0箇所		0人		0箇所		
③認知症総合支援事 業	事業費	認知症初期集中支援チーム設置				認知症地域支援推進員設置				
	0円	0箇所				0箇所				
④地域ケア会議推進 事業	事業費	地域ケア個別会議				地域ケア推進会議				
	0円	0回				0回				
総事業費が標準額を 超過する主な理由										

(注)

- 「事業費」には、対象経費支出予定額を記入すること。「標準額（4事業の合計額）」には、交付要綱4に定める基準額を記載すること。
- 在宅医療・介護連携推進事業の（ア）から（ク）については、実施要綱の事業内容（ア）から（ク）とする。右欄には実施の場合は○、未実施の場合は×を記入すること。
- 「社会保障充実分総事業費」が「標準額（4事業の合計額）」を超過する場合は、「総事業費が標準額を超過する主な理由」に記入すること。

平成 年度包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業の特例上限額適用に係る事業実施計画書

包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業(交付要綱3の(1)、(2)、(3)のイ・ロ)

実施主体	〇〇市	
①介護予防・日常生活支援総合事業の実施		
実施時期	平成 年 月 日から実施	
②主要介護給付等費用適正化事業		
事業名 (事業費)	事業内容	実施目標
認定調査状況 チェック (円)		
ケアプランの点検 (円)		
住宅改修等の点検 (円)		
医療情報との突合 ・縦覧点検 (円)		
介護給付費通知 (円)		
③小規模自治体に該当		

(注)

- 「(事業費)」には、対象経費支出予定額を記入すること。
- 「事業内容」には、各事業ごとの事業内容を具体的かつ簡潔に記入すること。
- 「実施目標」には、「第3期介護給付適正化計画」に関する指針(平成26年8月29日老介発0829第1号厚生労働省老健局介護保険計画課長通知)に基づき都道府県が策定した第3期適正化計画を踏まえ、市町村が作成した実施目標と整合性が図られていること。
また各事業ごとに1年間で達成すべき目標について、上記指針を踏まえ、定量的・定性的な観点から記入すること。
- ③は平成26年度の包括的支援事業・任意事業の上限額が12,500千円未満の市町村の場合、右欄に○を記入すること。小規模自治体に該当する場合は、②を記入しなくても可。

別紙様式第2様式5（旧介護予防・日常生活支援総合事業を実施する市町村）

平成 年度旧介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施計画書

1 旧介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る理由（該当項目にチェック）

- (ア) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超えず、
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。
- (イ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え、
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超えない。
- (ウ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え、
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。

2 事業実施計画額等について

	(1)旧政令第37条の13第1項(※1)で定める上限額(※2)	(2)事業実施計画額(※3)	うち要支援者にかかる額(※4)	(3)引上額((2)-(1))(0以上の数値を記入。)(※6)
地域支援事業	円	円	円	円
旧介護予防・日常生活支援総合事業	円	円	円	円
包括的支援事業(地域包括支援センターの運営等)及び任意事業	円	円		

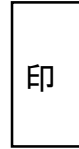
(4)給付見込額(※1)	円	(5)給付見込額に1%を乗じて得た額(※5)	地域支援事業	円
			旧介護予防・日常生活支援総合事業	円

- (※1) 給付見込額は、旧政令第37条の13第2項で規定されるとおり、旧介護予防・日常生活支援総合支援事業を行わないものとするば介護給付等に要することとなる費用の見込額に基づいて算定すること。
- (※2) (1)旧政令第37条の13第1項で定める上限額の算定時において、1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。(以下(※4)においても同じ。)
- (※3) (2)事業実施計画額は、対象経費支出予定額を記入すること。
- (※4) うち要支援者にかかる額は、(2)事業実施計画額中、要支援者の旧介護予防・日常生活支援総合事業にかかる実施計画額を記入すること。
- (※5) (5)給付見込額に1%を乗じて得た額は、給付見込額に、旧政令第37条の13第1項で定める上限比率(地域支援事業=百分の3、旧介護予防・日常生活支援総合事業=百分の2)に百分の1を加えた比率を乗じて得た額から、(1)旧政令第37条の13第1項で定める上限額を差し引いた額を記入すること。
- (※6) (3)引上額は、(5)給付見込額に1%を乗じて得た額を下回る額を記入すること。

保険者名					
都道府県コード	市区町村コード	C	D		

厚生労働大臣 殿

市町村長
広域連合代表
組合長



平成 年度地域支援事業交付金の変更交付申請について

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定を受けた標記交付金については、次により変更交付されるよう関係書類を添えて申請する。

- | | | | |
|---|---------------------------|---|---|
| 1 | 今回追加交付（一部取消）申請額 | 金 | 円 |
| | 内訳 交付金既交付決定額
変更後交付金所要額 | 金 | 円 |
| | | 金 | 円 |

		交付金既交付 決定額(A)	変更後交付金 所要額(B)	今回追加交付(一部 取消)申請額 (B)－(A)
地域支援事業交付金		円	円	円
内 訳	介護予防・日常生活支援 総合事業			
	旧介護予防・日常生活 支援総合事業			
	旧介護予防事業			
	包括的支援事業(地域包 括支援センターの運営) 及び任意事業			
	包括的支援事業 (社会保障充実分)			

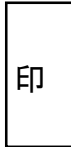
2 変更を必要とする理由

3 変更に必要な諸様式については、申請手続の様式に準ずる。

保 険 者 名					
都道府県コード*		市区町村コード*		C・D	

厚生労働大臣 殿

市町村長
広域連合代表
組合長



平成 年度地域支援事業交付金の事業実績報告について

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定を受けた標記交付金に係る事業実績について、次の関係書類を添えて報告する。

(添付書類)

全事業共通

- 1 平成 年度地域支援事業交付金精算書(様式1)
- 2 平成 年度包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)実施報告書(様式2)
- 3 平成 年度任意事業実施報告書(様式3)
- 4 平成 年度包括的支援事業(社会保障充実分)計画書(様式4)
- 5 平成 年度歳入歳出決算(見込)書抄本

(内訳として、支給実績内訳書(円単位、任意様式)等を添付すること。)

介護予防・日常生活支援総合事業実施市町村で該当がある場合のみ

- 6 平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施報告書(様式1の(1)別添)
- 7 平成 年度包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業の特例上限額適用に係る事業実施報告書(様式5)

旧介護予防・日常生活支援総合事業実施市町村で該当がある場合のみ

- 8 平成 年度旧介護予防・日常生活支援事業の上限額引き上げに係る事業実施報告書(様式6)

保 険 者 名					
都道府県コード	市区町村コード	C・D			

平成 年度地域支援事業交付金精算書

区 分	総事業費 A 円	寄付金その他 の収入額 B 円	差引額 C(A-B) 円	対象経費 実支出額 D 円	基準額 E 円	交付基本額 F 円	交付金所要額 G 円	交付金 交付決定額 H 円	交付金 受入済額 I 円	差引過不足額 I-G		備 考
										超過額 J 円	不足額 K 円	
1 介護予防・日常生活支援総合事業												
(1)訪問型サービス(第1号訪問事業)												
ア 訪問介護相当サービス												
イ 訪問型サービスA(緩和した基準によるサービス)												
ウ 訪問型サービスB(住民主体による支援)												
エ 訪問型サービスC(短期集中予防サービス)												
オ 訪問型サービスD(移動支援)												
カ その他												
(2)通所型サービス(第1号通所事業)												
ア 通所介護相当サービス												
イ 通所型サービスA(緩和した基準によるサービス)												
ウ 通所型サービスB(住民主体による支援)												
エ 通所型サービスC(短期集中予防サービス)												
オ その他												
(3)その他生活支援サービス(第1号生活支援事業)												
ア 栄養改善を目的とした配食												
イ 定期的な安否確認及び緊急時の対応												
ウ 訪問型サービス・通所型サービスの一体的提供等												
エ その他												
(4)介護予防ケアマネジメント(第1号介護予防支援事業)												
(5)審査支払手数料												
(6)高額介護予防サービス費相当事業等												
(7)一般介護予防事業												
ア 介護予防把握事業												
イ 介護予防普及啓発事業												
ウ 地域介護予防活動支援事業												
エ 一般介護予防事業評価事業												
オ 地域リハビリテーション活動支援事業												
2 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業												
(1)包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)												
(2)任意事業												
ア 介護給付等費用適正化事業												
イ 家族介護支援事業												
ウ その他の事業												
(ア)成年後見制度利用支援事業												
(イ)福祉用具・住宅改修支援事業												
(ウ)認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業												
(エ)認知症サポーター等養成事業												
(オ)重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業												
(カ)地域自立生活支援事業												
3 小 計(1+2)												
4 包括的支援事業(社会保障充実分)												
(1)在宅医療・介護連携推進事業												
(2)生活支援体制整備事業												
(3)認知症初期集中支援推進事業												
(4)認知症地域支援・ケア向上事業												
(5)地域ケア会議推進事業												
5 合 計(3+4)												

(注) 1 B欄には、交付要綱4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 3 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
 4 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額(1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。)を記入すること。

①総合事業の個別協議の有無
 ②包括的支援事業(社会保障充実分)の個別協議の有無

保 険 者 名
 都道府県コード
 市区町村コード
 C・D

別紙様式第4様式1の(1)別添

平成 年度介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施報告書

介護予防・日常生活支援総合事業(交付要綱3の(1)のアの事業)

実施主体	〇〇市		
実施時期	平成	年	月 日から実施
実績額	0円 (計画額:		0円)
上限額			
(1) 原則の上限額			0円
(2) 選択可能な上限額(給付全体)			0円
(3) (1)の10%特例選択			0円
(4) (2)の10%特例選択			0円
上限超過の理由(下記の理由に該当する箇所に○を付け、具体的な内容を記載すること)			
	介護予防に効果的なプログラムを新たに導入等		
	介護予防や生活支援サービスの供給体制が近隣市町村と比較して著しく不足等		
	小規模市町村で通いの場の新たな整備等		
	その他		
内容 (具体的に 記載)			

※上限引き上げは、当該年度一時的に費用が伸びるが、住民主体の取組が促進され、費用の伸びが低減する見込みがあることが前提。

※上限超過の理由として、該当箇所に○を付けた場合には以下の点に留意の上、具体的に内容を記載すること。個別協議については、理由によっては認められない場合もあるので留意すること。

・介護予防に効果的なプログラムを新たに導入・・・具体的に新たに導入したプログラム内容を具体的に記載すること。なお、原則として導入した年度のみ個別協議が認められるものとするが、やむを得ない理由がある場合はこの限りではない。

・介護予防や生活支援サービスの供給体制が近隣市町村と比較して著しく不足・・・県内の市町村との比較か隣接市町村との比較かなど具体的な比較方法を数値も含めて記載する。

・小規模市町村で通いの場の新たな整備・・・整備に要した額を具体的に記載する。

・その他・・・内容が詳細に分かるように具体的に記載する。

平成 年度地域支援事業交付金精算書

区 分	総事業費 A	寄付金その他の収入額 B	差引額 C(A-B)	対象経費 実支出額 D	基準額 E	交付基本額 F	交付金所要額 G	交付金 交付決定額 H	交付金 受入済額 I	差引過不足額 I-G		備 考
										超過額 J	不足額 K	
										円	円	
1 旧介護予防・日常生活支援総合事業												
(1)要支援者向け事業												
ア 予防サービス事業及び生活支援サービス事業												
イ ケアマネジメント事業												
ウ 評価事業												
(2)二次予防事業対象者向け事業												
ア 二次予防事業対象者の把握事業												
イ 予防サービス事業及び生活支援サービス事業												
ウ ケアマネジメント事業												
エ 評価事業												
(3)一次予防事業対象者向け事業												
ア 介護予防普及啓発事業												
イ 地域介護予防活動支援事業												
ウ 一次予防事業評価事業												
エ 地域リハビリテーション活動支援事業												
(4)審査支払手数料												
(5)総合事業費精算金												
2 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業												
(1)包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)												
(2)任意事業												
ア 介護給付等費用適正化事業												
イ 家族介護支援事業												
ウ その他の事業												
(ア)成年後見制度利用支援事業												
(イ)福祉用具・住宅改修支援事業												
(ウ)認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業												
(エ)認知症サポーター等養成事業												
(オ)重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業												
(カ)地域自立生活支援事業												
3 小 計(1+2)												
4 包括的支援事業(社会保障充実分)												
(1)在宅医療・介護連携推進事業												
(2)生活支援体制整備事業												
(3)認知症初期集中支援推進事業												
(4)認知症地域支援・ケア向上事業												
(5)地域ケア会議推進事業												
5 合 計(3+4)												

- (注) 1 B欄には、交付要綱4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 3 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
 4 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額(1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。)を記入すること。

給付見込額	
	円
包括的支援事業(社会保障充実分)の個別協議の有無	

保険者名	
都道府県コード	
市区町村コード	
C・D	

平成 年度地域支援事業交付金精算書

区分	総事業費 A 円	寄付金その他の収入額 B 円	差引額 C(A-B) 円	対象経費 実支出額 D 円	基準額 E 円	交付基本額 F 円	交付金所要額 G 円	交付金 交付決定額 H 円	交付金 受入済額 I 円	差引過不足額 I-G		備考	備考
										超過額 J 円	不足額 K 円		
1 旧介護予防事業													
(1) 二次予防事業													
ア 二次予防事業の対象者把握事業													
イ 通所型介護予防事業													
ウ 訪問型介護予防事業													
エ 二次予防事業評価事業													
(2) 一次予防事業													
ア 介護予防普及啓発事業													
イ 地域介護予防活動支援事業													
ウ 一次予防事業評価事業													
エ 地域リハビリテーション活動支援事業													
(3) 総合事業費精算金													
2 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業													
(1) 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)													
(2) 任意事業													
ア 介護給付等費用適正化事業													
イ 家族介護支援事業													
ウ その他の事業													
(ア) 成年後見制度利用支援事業													
(イ) 福祉用具・住宅改修支援事業													
(ウ) 認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業													
(エ) 認知症サポーター等養成事業													
(オ) 重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業													
(カ) 地域自立生活支援事業													
3 小計(1+2)													
4 包括的支援事業(社会保障充実分事業計)													
(1) 在宅医療・介護連携推進事業													
(2) 生活支援体制整備事業													
(3) 認知症初期集中支援推進事業													
(4) 認知症地域支援・ケア向上事業													
(5) 地域ケア会議推進事業													
5 合計(3+4)													

- (注) 1 B欄には、交付要綱4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。
 2 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。
 3 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。
 4 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額(1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。)を記入すること。

給付見込額
円
包括的支援事業(社会保障充実分)の個別協議の有無

保険者名	
都道府県コード	
市区町村コード	
C・D	

別紙様式第4様式2

平成 年度包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）実施報告書

1 地域包括支援センターの設置状況

(1) 設置状況

	合計	
	直営	委託
地域包括支援センターの設置数		

(2) 委託先の状況

	合計						
	社会福祉法人 (社協以外)	社会福祉協議会	医療法人	社団・財団法人	NPO法人	その他	
委託先件数							

(3) 職員の状況

	合計			
	保健師	社会福祉士	主任ケアマネジャー	その他
配置数				

※「保健師」には経験ある看護師も含む。

保険者名					
都道府県 コード		市区町村コード			C・D

平成 年度任意事業実施報告書

任意事業（交付要綱3の(1)、(2)、(3)のウの事業）

介護保険法第115条の45第3項に基づく事業	ア 介護給付等費用適正化事業	
	イ 家族介護支援事業	
	ウ その他の事業	
	実施主体	〇〇市
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
事業費	円 (計画額: 円)	
事業名 (事業費)	実施内容	効果
(円)		
(円)		
(円)		
(円)		
(円)		

(注)

- 「介護保険法第115条の45第3項に基づく事業」は、ア～ウの該当する事業の記号に「○」を付けること。また、ア～ウの事業を複数実施している場合は別葉で作成し、要綱等関係書類を添付すること。
- 「事業名(事業費)」について、事業名は様式3別添より番号を記入し、事業費には対象経費実支出額を記入し、計画額には実施計画時の対象経費支出予定額を記入すること。
- 「実施内容」は、具体的かつ簡潔に記入すること。
- 「効果」には、事業計画書の目標に対して達成した効果について、定量的・定性的な観点から記入すること。

任意事業

介護給付等費用適正化事業	① 認定調査状況チェック
	② ケアプランの点検
	③ 住宅改修等の点検
	④ 医療情報との突合・縦覧点検
	⑤ 介護給付費通知
	⑥ 給付実績を活用した分析・検証事業
	⑦ 介護サービス事業者等への適正化支援事業
家族介護支援事業	⑧ 介護教室の開催
	⑨ 認知症高齢者見守り事業
	⑩ 健康相談・疾病予防等事業
	⑪ 介護者交流会の開催
	⑫ 介護自立支援事業
	⑬ 介護用品の支給
その他の事業	⑭ 成年後見制度利用支援事業
	⑮ 福祉用具・住宅改修支援事業
	⑯ 認知症対応型共同生活介護事業所の家賃等助成事業
	⑰ 認知症サポーター等養成事業
	⑱ 重度のALS患者の入院におけるコミュニケーション支援事業
	⑲ 高齢者の安心な住まいの確保に資する事業
	⑳ 介護サービスの質の向上に資する事業
	㉑ 地域資源を活用したネットワーク形成に資する事業
	㉒ 家庭内の事故等への対応の体制整備に資する事業

平成 年度包括的支援事業（社会保障充実分）実施報告書

包括的支援事業（社会保障充実分）（交付要綱3の（1）、（2）、（3）のイの事業）

実施主体	〇〇市									
実施時期	①平成 年 月 日から実施					②平成 年 月 日から実施				
	③平成 年 月 日から実施					④平成 年 月 日から実施				
社会保障充実分 総事業費	円			標準額 (4事業の合計額)		円				
①在宅医療・介護連 携推進事業	事業費	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	
	0円	(イ)等の会議		(オ)の相談窓口	(オ)の相談員等	(カ)多職種研修	(キ)その他の研修			
		0回	0箇所	0人	0回	0回				
②生活支援体制整備 事業	事業費	第1層				第2層				
		コーディネーター		協議体		コーディネーター		協議体		
	0円	0人		0箇所		0人		0箇所		
③認知症総合支援事 業	事業費	認知症初期集中支援チーム設置				認知症地域支援推進員設置				
	0円	0箇所				0箇所				
④地域ケア会議推進 事業	事業費	地域ケア個別会議				地域ケア推進会議				
	0円	0回				0回				

(注)

- 「事業費」には、対象経費支出予定額を記入すること。「標準額（4事業の合計額）」には、交付要綱4に定める基準額を記載すること。
- 在宅医療・介護連携推進事業の（ア）から（ク）については、実施要綱の事業内容（ア）から（ク）とする。右欄には実施の場合は〇、未実施の場合は×を記入すること。

平成 年度包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）及び任意事業の特例上限額適用に係る事業実施報告書

包括的支援事業（地域包括支援センターの運営等）及び任意事業（交付要綱3の（1）、（2）、（3）のイ・ウの事業）

実施主体	〇〇市	
①介護予防・日常生活支援総合事業の実施		
実施時期	平成 年 月 日から実施	
②主要介護給付等費用適正化事業		
事業名 (事業費)	主要5事業に係る取り組みの効果検証等	
認定調査状況 チェック (円)	①目標に照らした現状の評価	
	②分析の結果明らかになる課題の整理	
	③目標の達成に向けた改善策の検討	
ケアプランの点検 (円)	①目標に照らした現状の評価	
	②分析の結果明らかになる課題の整理	
	③目標の達成に向けた改善策の検討	
住宅改修等の点検 (円)	①目標に照らした現状の評価	
	②分析の結果明らかになる課題の整理	
	③目標の達成に向けた改善策の検討	
医療情報との突合 ・縦覧点検 (円)	①目標に照らした現状の評価	
	②分析の結果明らかになる課題の整理	
	③目標の達成に向けた改善策の検討	
介護給付費通知 (円)	①目標に照らした現状の評価	
	②分析の結果明らかになる課題の整理	
	③目標の達成に向けた改善策の検討	
③小規模自治体に該当		

(注)

- 1 「事業費（実施計画額）」には、対象経費実支出額と実施計画時の対象経費支出予定額を記入すること。
- 2 「主要5事業に係る取り組みの効果検証等」には、事前の目標設定を踏まえ、①から③の項目ごとに記入すること。
- 3 ③は平成26年度の包括的支援事業・任意事業の上限額が12,500千円未満の市町村の場合、右欄に○を記入すること。小規模自治体に該当する場合は、②を記入しなくても可。

平成 年度旧介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る事業実施報告書

1 旧介護予防・日常生活支援総合事業の上限額引き上げに係る理由（該当項目にチェック）

- (ア) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超えず、
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。
- (イ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え、
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超えない。
- (ウ) 地域支援事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の三を超え、
旧介護予防・日常生活支援総合事業に要する費用の額が、給付見込額の百分の二を超える。

2 実績額等について

	(1)旧政令第37条の13第1項で定める上限額 (※2)	(2)事業実績額 (※3)	うち要支援者にかかる額(※4)	(3)差引額((2)-(1)) (0以上の数値を記入。) (※6)
地域支援事業	円	円	円	円
旧介護予防・日常生活支援総合事業	円	円	円	円
包括的支援事業(地域包括支援センターの運営等)及び任意事業	円	円		

(4)給付見込額 (※1)	円	(5)給付見込額に1%を乗じて得た額(※5)	地域支援事業	円
			旧介護予防・日常生活支援総合事業	円

(※1) 給付見込額は、旧政令第37条の13第2項で規定されるとおり、旧介護予防・日常生活支援総合支援事業を行わないものとするれば介護給付等に要することとなる費用の見込額に基づいて算定すること。

(※2) (1)旧政令第37条の13第1項で定める上限額の算定時において、1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。(以下(※4)においても同じ。)

(※3) (2)事業実績額は、対象経費実支出額を記入すること。

(※4) うち要支援者にかかる額は、(2)事業実績額中、要支援者の旧介護予防・日常生活支援総合事業にかかる実績額を記入すること。

(※5) (5)給付見込額に1%を乗じて得た額は、給付見込額に、旧政令第37条の13第1項で定める上限比率(地域支援事業=百分の3、旧介護予防・日常生活支援総合事業=百分の2)に百分の1を加えた比率を乗じて得た額から、(1)旧政令第37条の13第1項で定める上限額を差し引いた額を記入すること。

(※6) (3)差引額は、(5)給付見込額に1%を乗じて得た額を下回る額を記入すること。

保 険 者 名					
都道府県コード*	市区町村コード*	C	D		

平成 年度地域支援事業交付金交付決定通知書

(市町村名)

平成 年 月 日 第 号で申請のあった介護保険法(平成9年法律第123号)第122条の2に基づき平成 年度地域支援事業交付金については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)(以下「適正化法」という。)

{ 第6条第1項の規定により
第6条第3項の規定により、修正のうえ }

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号をもって、次のとおり交付することに決定されたので、適正化法第8条の規定により通知する。

平成 年 月 日

都道府県知事 氏 名



1 交付金の交付の対象となる事業(以下「事業」という。)は、平成〇〇年〇月〇〇日厚生労働省発老第〇〇〇〇〇〇〇号厚生労働事務次官通知の別紙「地域支援事業交付金交付要綱」(以下「交付要綱」という。)の3に定める事業であり、その内容は { 平成 年 月 日第 号申請書記載のとおり
2のとおり } である。

2 事業に要する経費及び交付金の額は、次のとおりである。ただし、事業の内容が変更された場合において、事業に要する経費又は交付金の額が変更されるときは、別に通知するところによるものとする。

事業に要する経費	金	円
交付金の額	金	円

3 事業に要する経費の配分及びこれに対応する交付金の額の区分は、次のとおりである。

区 分	事業に要する経費		交付金の額	
介護予防・日常生活支援総合事業	金	円	金	円
旧介護予防・日常生活支援総合事業 又は旧介護予防事業	金	円	金	円
包括的支援事業(地域包括支援 センターの運営)及び任意事業	金	円	金	円
包括的支援事業(社会保障充実分)	金	円	金	円

4 交付金の額の確定は、交付要綱の4に定める交付額の算定方法により行うものである。

5 この交付金は交付要綱の6に掲げる事項を条件として交付するものである。

6 事業に係る事業実績報告は、交付要綱の11に定めるところにより行わなければならない。

7 この交付の決定の内容又は条件に不服がある場合における適正化法第9条第1項の規定による申請の取下げをすることができる期限は、平成 年 月 日とする。

平成 年度地域支援事業交付金追加交付決定(交付決定一部取消)通知書

(市町村名)

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定された平成 年度地域支援事業交付金については、平成 年 月 日 第 号申請に基づき、平成 年 月 日厚生労働省発老第 号をもって決定の内容の一部を次のとおり変更することに決定されたので通知する。

平成 年 月 日

都道府県知事 氏 名

印

1 交付金の交付の対象となる事業(以下「事業」という。)は、平成〇〇年〇月〇〇日厚生労働省発老第〇〇〇〇〇〇〇〇号厚生労働事務次官通知の別紙「地域支援事業交付金交付要綱」の3に定める事業であり、その内容は {平成 年 月 日第 号申請書記載のとおり} である。
{2のとおり}

2 事業に要する経費及び交付金の額は、次のとおりである。

事業に要する経費 金 円 (内今回増加(減少)額 金 円)
交付金の額 金 円 (内今回追加交付(一部取消)額 金 円)

3 事業に要する経費の配分及びこれに対応する交付金の額の区分は、次のとおりである。

区 分	事業に要する経費	交付金の額
介護予防・日常生活支援総合事業	金 円	金 円
	内今回増加(減少)額 金 円	内今回追加交付(一部取消)額 金 円
旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業	金 円	金 円
	内今回増加(減少)額 金 円	内今回追加交付(一部取消)額 金 円
包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業	金 円	金 円
	内今回増加(減少)額 金 円	内今回追加交付(一部取消)額 金 円
包括的支援事業(社会保障充実分)	金 円	金 円
	内今回増加(減少)額 金 円	内今回追加交付(一部取消)額 金 円

4 この交付の決定の内容又は条件に不服がある場合における補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第9条第1項の規定による申請の取下げをすることができる期限は、平成 年 月 日とする。

平成 年度地域支援事業交付金交付額確定通知書

(市町村名)

平成 年 月 日厚生労働省発老第 号で交付決定された平成 年度地域支援事業交付金については、平成 年 月 日 第 号事業実績報告に基づき、平成 年 月 日厚生労働省発老第 号をもって交付額が別表のとおり確定されたので通知する。

なお、確定の結果不足となる金額については、別表のとおり追加交付することとし、また、超過交付となった金額については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第18条第2項の規定により、平成 年 月 日までに返還することを命ぜられたので併せて通知する。

平成 年 月 日

都道府県知事 氏 名

印

(別表)

平成 年度地域支援事業交付金交付額確定内訳書

市 町 村 名

		確定額	追加交付額	返還を要する額
地域支援事業交付金		円	円	円
内 訳	介護予防・日常生活支援総合事業	円	円	円
	旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業	円	円	円
	包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業	円	円	円
	包括的支援事業(社会保障充実分)	円	円	円

第 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣 殿

都道府県知事

印

(標 題)

管内市町村から提出された標記申請(報告)書について、関係書類と照合等その内容を審査し、適正であることを確認したので、別添のとおり提出します。

記入上の注意

標題は、次のとおり記入する。

- (1) 当初申請のときは、「平成 年度地域支援事業交付金交付申請書の提出について」と記入し、所要額調書市町村別内訳(様式1)を添付すること。
- (2) 変更交付申請のときは、「平成 年度地域支援事業交付金変更交付申請書の提出について」と記入し、所要額調書市町村別内訳(様式1)を添付すること。
- (3) 事業実績報告のときは、「平成 年度地域支援事業交付金事業実績報告書の提出について」と記入し、精算書市町村別内訳(様式2)を添付すること。

(項)高齢者日常生活支援等推進費
(目)地域支援事業交付金

(都道府県名:)

項番	市町村名	保険者番号	当初交付申請公文書		区分	総事業費	寄付金その他の収入額	差引額	対象経費支出予定額	基準額	交付基本額	交付金所要額	総合事業調整交付金所要額	備考	
			年月日	番号											
			A	B											C(A-B)
						円	円	円	円	円	円	円	円	円	
1					介護予防・日常生活支援総合事業										
					旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業										
					包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業										
					在宅医療・介護連携推進事業										
					生活支援体制整備事業										
					認知症初期集中支援推進事業										
					認知症地域支援・ケア向上事業										
					地域ケア会議推進事業										
					計										
2					介護予防・日常生活支援総合事業										
					旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業										
					包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業										
					在宅医療・介護連携推進事業										
					生活支援体制整備事業										
					認知症初期集中支援推進事業										
					認知症地域支援・ケア向上事業										
					地域ケア会議推進事業										
					計										
3					介護予防・日常生活支援総合事業										
					旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業										
					包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業										
					在宅医療・介護連携推進事業										
					生活支援体制整備事業										
					認知症初期集中支援推進事業										
					認知症地域支援・ケア向上事業										
					地域ケア会議推進事業										
					計										
4					介護予防・日常生活支援総合事業										
					旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業										
					包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業										
					在宅医療・介護連携推進事業										
					生活支援体制整備事業										
					認知症初期集中支援推進事業										
					認知症地域支援・ケア向上事業										
					地域ケア会議推進事業										
					計										
5					介護予防・日常生活支援総合事業										
					旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業										
					包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業										
					在宅医療・介護連携推進事業										
					生活支援体制整備事業										
					認知症初期集中支援推進事業										
					認知症地域支援・ケア向上事業										
					地域ケア会議推進事業										
					計										
合計					介護予防・日常生活支援総合事業										
					旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防事業										
					包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)及び任意事業										
					在宅医療・介護連携推進事業										
					生活支援体制整備事業										
					認知症初期集中支援推進事業										
					認知症地域支援・ケア向上事業										
					地域ケア会議推進事業										
					計										

(注) 1 区分欄における「実施事業名」欄には、旧介護予防事業、介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防・日常生活支援総合事業のうち、実施している事業名を記入すること。

2 B欄には、交付要綱の4(1)寄付金その他の収入額を記入すること。

3 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。

4 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。

5 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額(1円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てること。)を記入すること。

(項)高齢者日常生活支援等推進費

(目)地域支援事業交付金

(都道府県名:)

項番	市町村名	区 分	総事業費	寄付金その他 の収入額	差引額	対象経費 実支出額	基準額	交付基本額	交付金所要額	総合事業調整 交付金所要額	備考
			A 円	B 円	C(A-B) 円	D 円	E 円	F 円	G 円	H 円	
1		介護予防・日常生活支援総合事業									
		旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧 介護予防事業									
		包括的支援事業(地域包括支援センターの運 営)及び任意事業									
		在宅医療・介護連携推進事業									
		生活支援体制整備事業									
		認知症初期集中支援推進事業									
		認知症地域支援・ケア向上事業									
		地域ケア会議推進事業									
		計									
		2		介護予防・日常生活支援総合事業							
旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧 介護予防事業											
包括的支援事業(地域包括支援センターの運 営)及び任意事業											
在宅医療・介護連携推進事業											
生活支援体制整備事業											
認知症初期集中支援推進事業											
認知症地域支援・ケア向上事業											
地域ケア会議推進事業											
計											
3				介護予防・日常生活支援総合事業							
		旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧 介護予防事業									
		包括的支援事業(地域包括支援センターの運 営)及び任意事業									
		在宅医療・介護連携推進事業									
		生活支援体制整備事業									
		認知症初期集中支援推進事業									
		認知症地域支援・ケア向上事業									
		地域ケア会議推進事業									
		計									
		4		介護予防・日常生活支援総合事業							
旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧 介護予防事業											
包括的支援事業(地域包括支援センターの運 営)及び任意事業											
在宅医療・介護連携推進事業											
生活支援体制整備事業											
認知症初期集中支援推進事業											
認知症地域支援・ケア向上事業											
地域ケア会議推進事業											
計											
5				介護予防・日常生活支援総合事業							
		旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧 介護予防事業									
		包括的支援事業(地域包括支援センターの運 営)及び任意事業									
		在宅医療・介護連携推進事業									
		生活支援体制整備事業									
		認知症初期集中支援推進事業									
		認知症地域支援・ケア向上事業									
		地域ケア会議推進事業									
		計									
		合計		介護予防・日常生活支援総合事業							
旧介護予防・日常生活支援総合事業又は旧 介護予防事業											
包括的支援事業(地域包括支援センターの運 営)及び任意事業											
在宅医療・介護連携推進事業											
生活支援体制整備事業											
認知症初期集中支援推進事業											
認知症地域支援・ケア向上事業											
地域ケア会議推進事業											
計											

(注) 1 区分欄における「実施事業名」欄には、旧介護予防事業、介護予防・日常生活支援総合事業又は旧介護予防・日常生活支援総合事業のうち、実施している事業名を記入すること。

2 B欄には、交付要綱の4にいう寄付金その他の収入額を記入すること。

3 E欄には、交付要綱4に定める基準額を記入すること。

4 F欄には、C欄、D欄及びE欄を比較して最も少ない額を記入すること。

5 G欄には、F欄の額に交付要綱4の第4欄に定める交付率を乗じて得た額(1円未満の端数は、これを切り捨てること。)を記入すること。